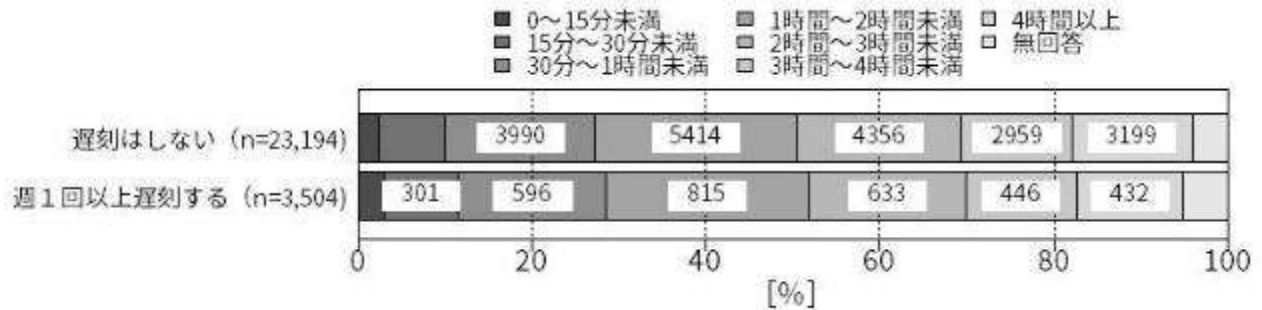


学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））
 （子ども票 問 9 × 保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

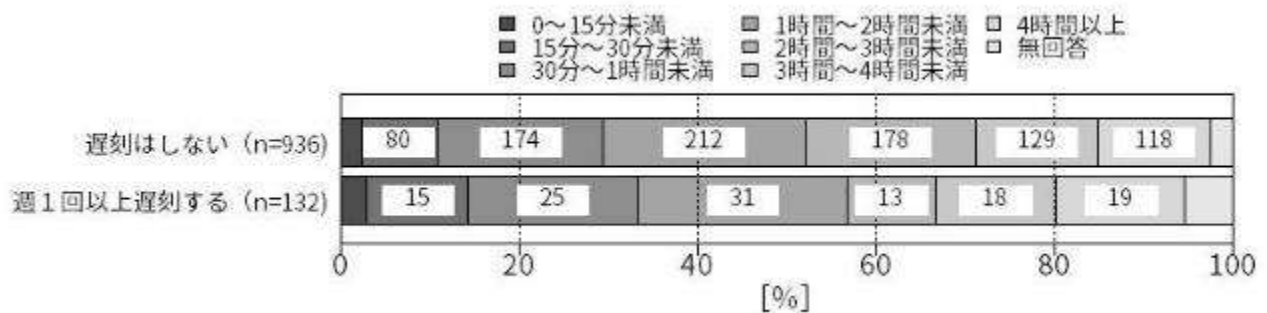


図 235. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
 （子どもと一緒にいる時間（平日））

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者との関わりは「2 時間～3 時間未満」「3 時間～4 時間未満」の割合がそれぞれ 19.0%、13.8%であった。「週 1 回以上遅刻する」子どもにおいては、「15 分～30 分未満」の割合が 11.4%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））
 （子ども票 問 9 × 保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

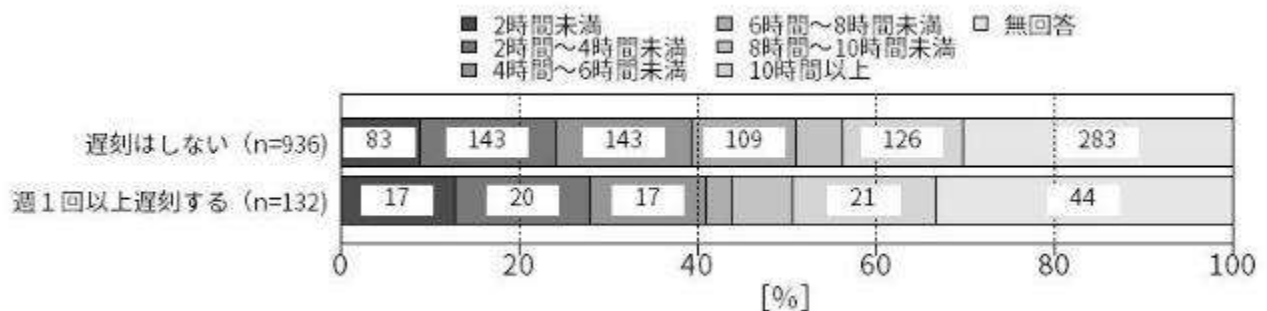
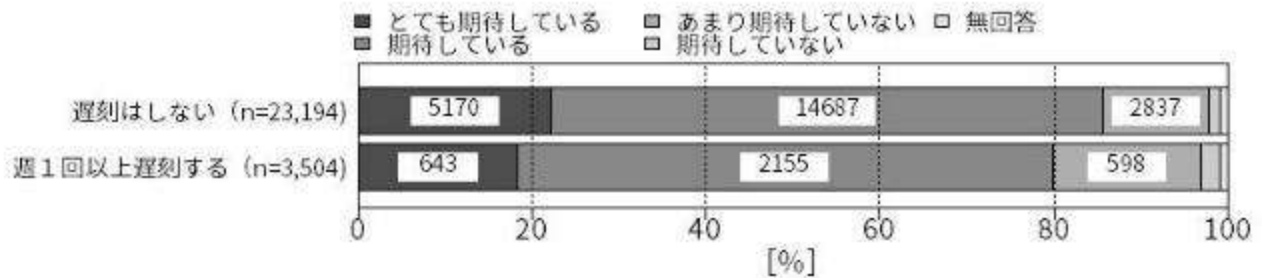


図 236. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
 （子どもと一緒にいる時間（休日））

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者との関わりは「2 時間未満」「2 時間～4 時間未満」「4 時間～6 時間未満」の割合は、それぞれ 8.9%、15.3%、15.3%、であった。「週 1 回以上遅刻する」子どもにおいては、「2 時間未満」「2 時間～4 時間未満」「4 時間～6 時間未満」の割合は、それぞれ 12.9%、15.2%、12.9%であった。また、いずれも無回答の割合が高い。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
 （子ども票 問 9 × 保護者票 問 14(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

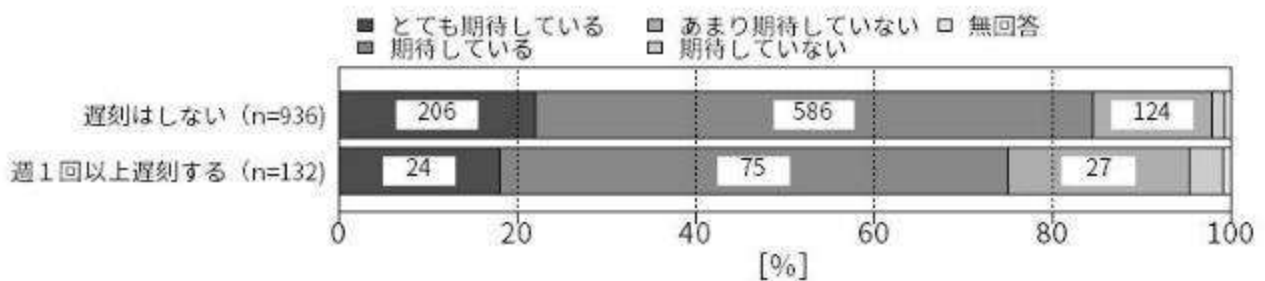
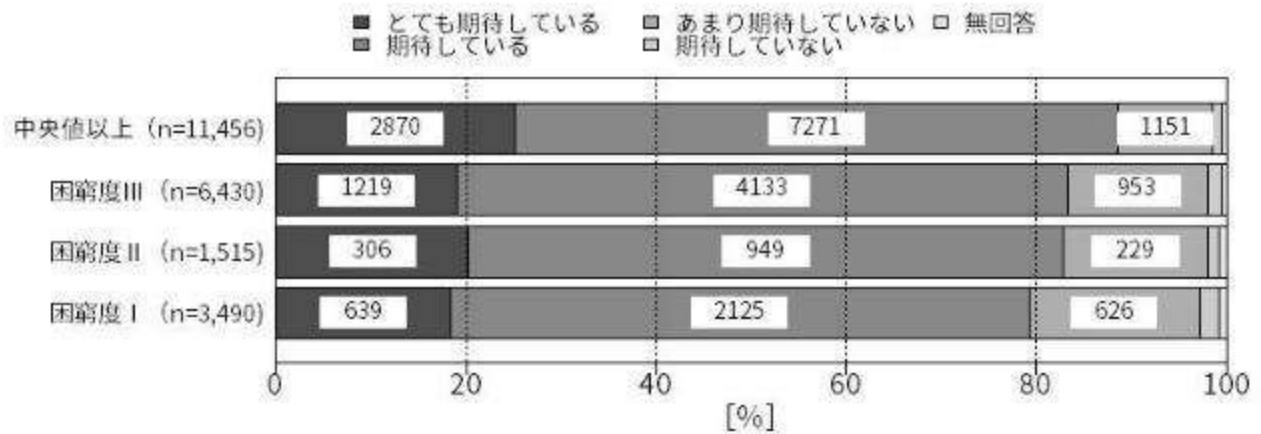


図 237. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は子どもの将来に「とても期待している」割合は、22.0%であった。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、18.2%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
（保護者票 問 14(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

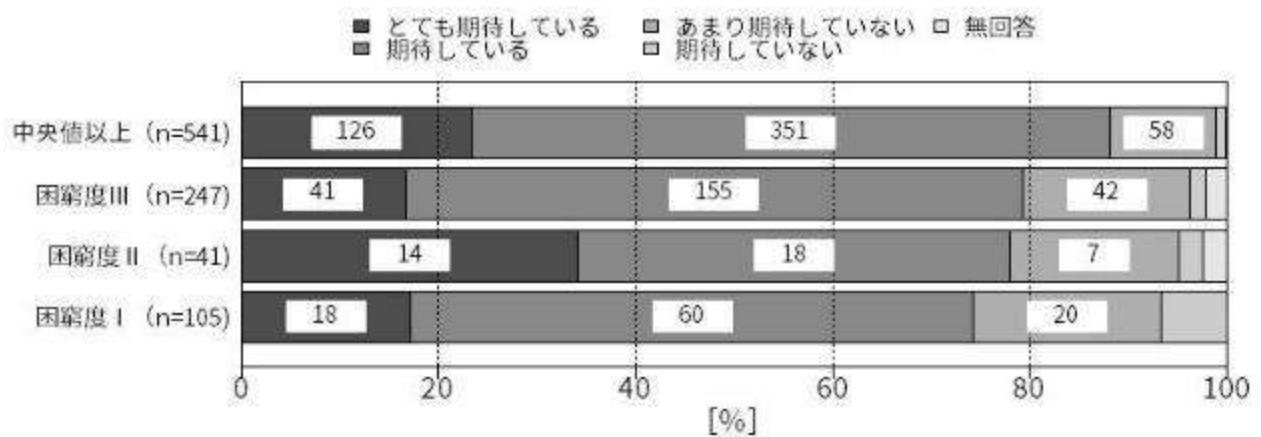
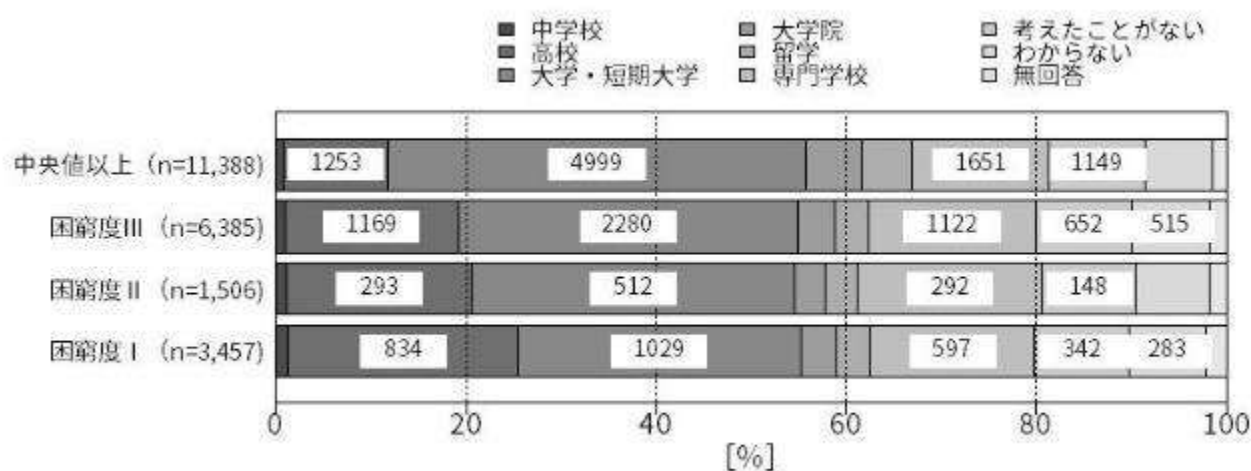


図 238. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「あまり期待していない」「期待していない」が増えている傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「あまり期待していない」「期待していない」を合計すると 25.7%であった。

困窮度別に見た、希望する進学先（子ども票 問 27）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

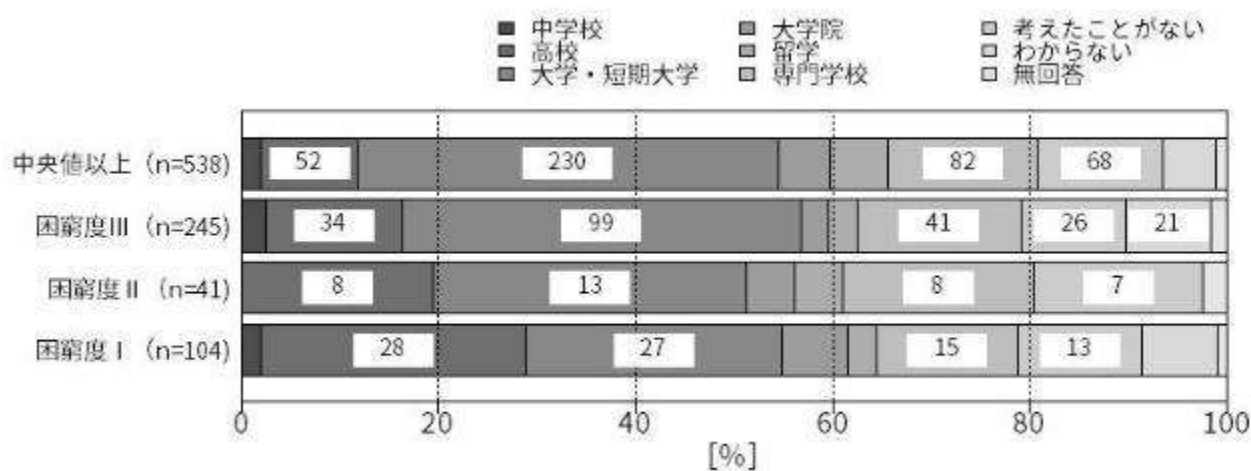
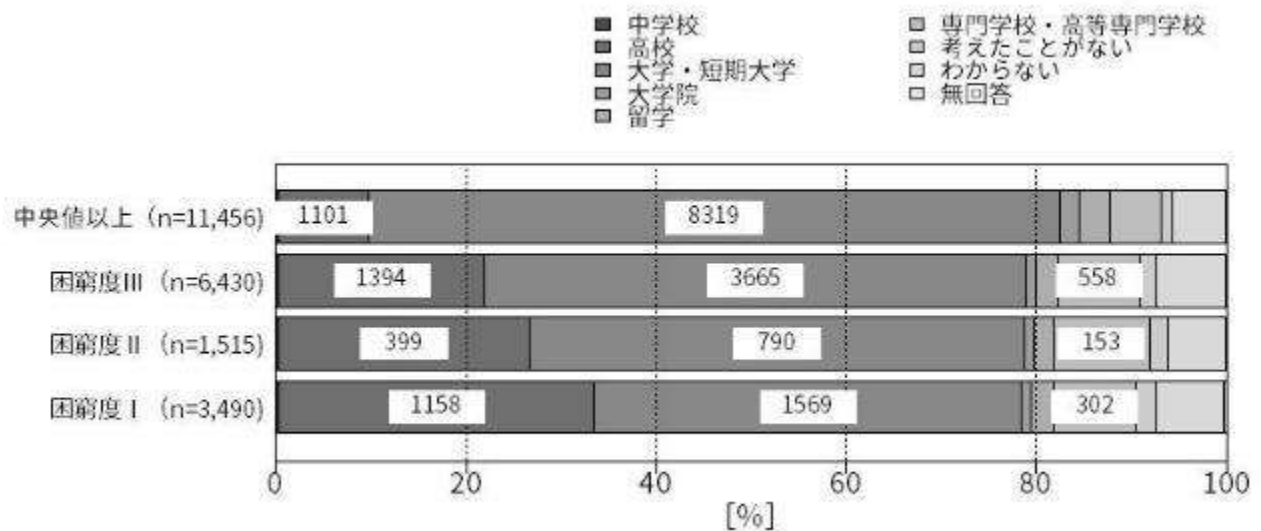


図 239. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合と「専門学校」と回答した子どもの割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「中学校」「高校」と回答した子どもは合計 28.8%、「専門学校」と回答した子どもは 14.4%であった。中央値以上群において「大学・短期大学」と回答した割合は 42.8%であった。

困窮度別に見た、子どもの進学予測（保護者票 問 15）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

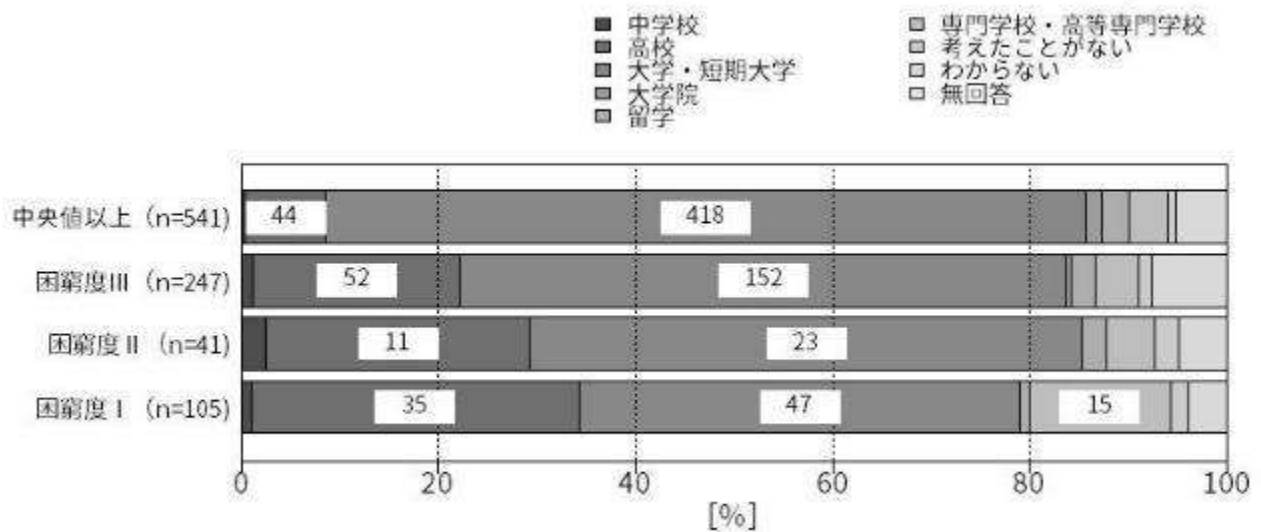
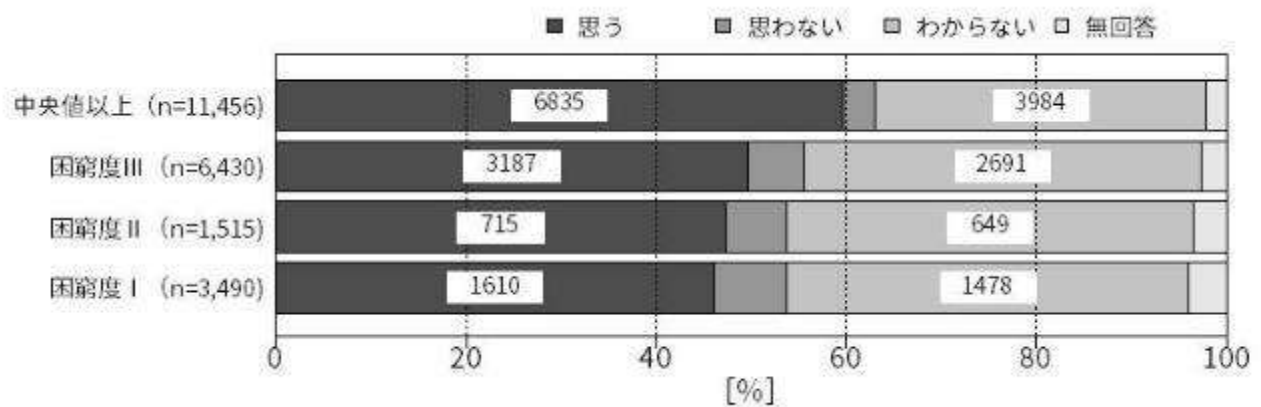


図 240. 困窮度別に見た、子どもの進学予測

困窮度別に子どもの進学予測（保護者による）を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合と「専門学校」と回答した子どもの割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「中学校」「高校」と回答した人は合計 34.3%、「専門学校」と回答した人は 14.3%であった。中央値以上群において「大学・短期大学」と回答した割合は 77.3%であった。

困窮度別に見た、子どもの進学達成予測（保護者票 問 16）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

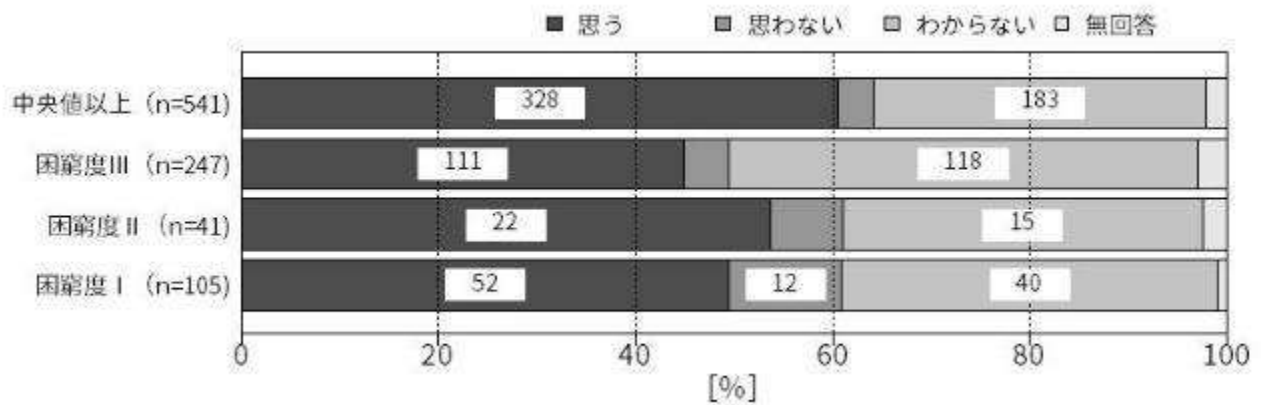
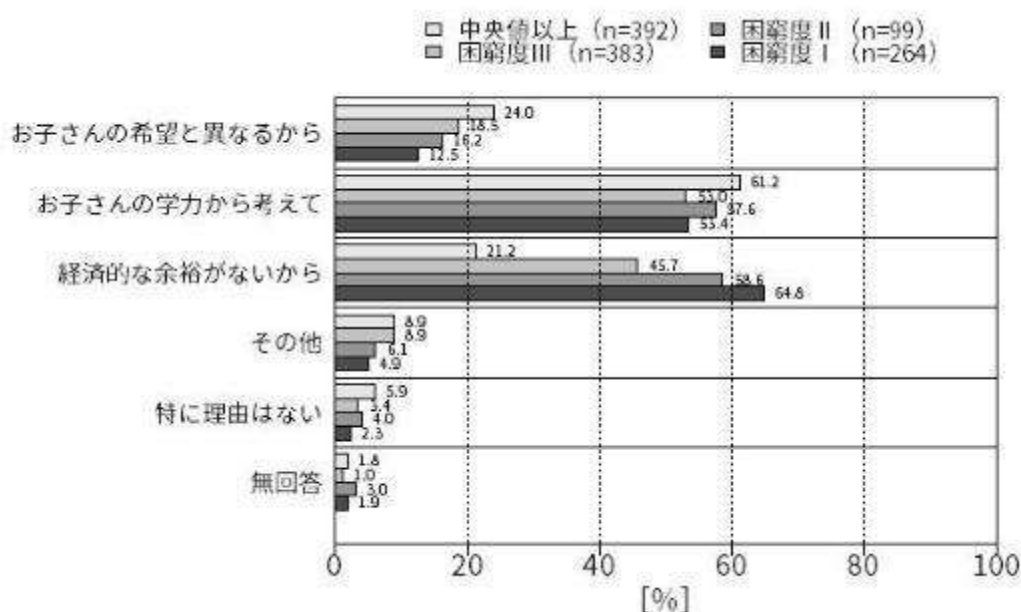


図 241. 困窮度別に見た、子どもの進学達成予測

困窮度別に子どもの進学達成予測（保護者による）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「思わない」と回答した保護者の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「思わない」と回答した人は合計 11.4%であった。中央値以上群において「思う」と回答した割合は 60.6%であった。

困窮度別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由（保護者票 問 17）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

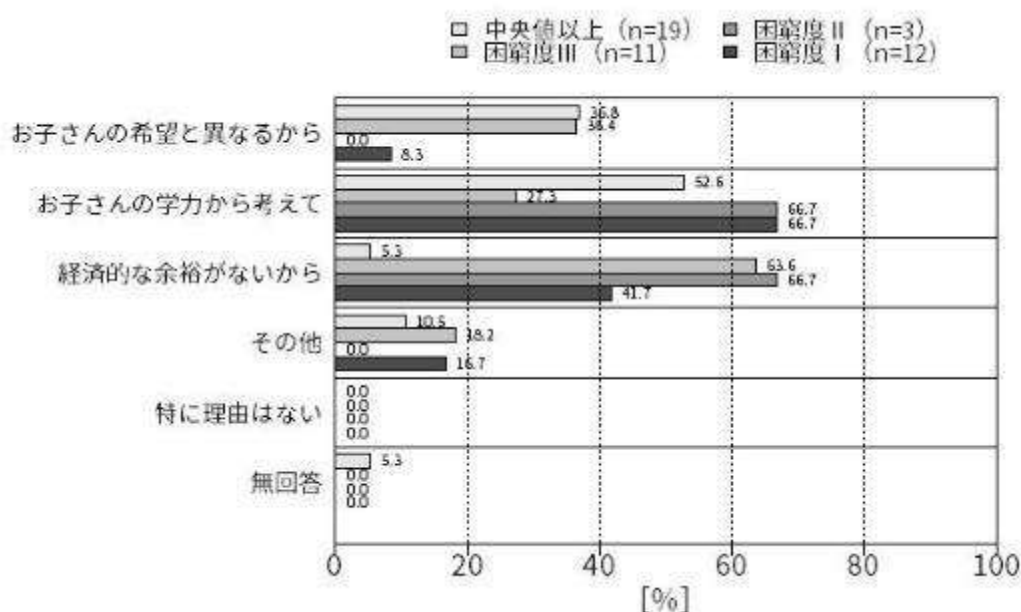
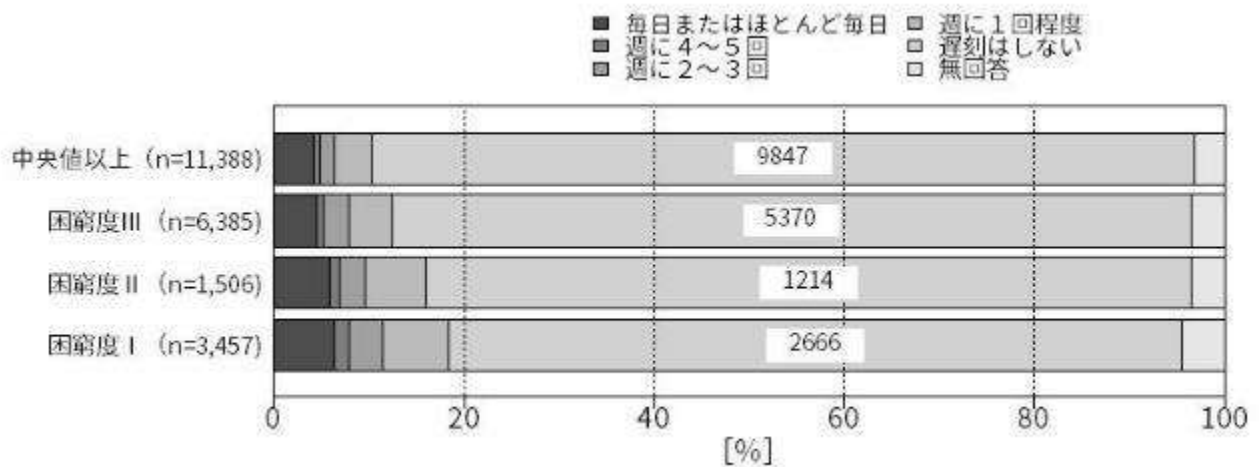


図 242. 困窮度別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由

困窮度別に子どもの進学達成「思わない」理由（保護者による）を見ると、いずれも人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。困窮度Ⅰ群において「経済的な余裕がないから」と回答した人は41.7%であった。

困窮度別に見た、学校への遅刻（子ども票 問9）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

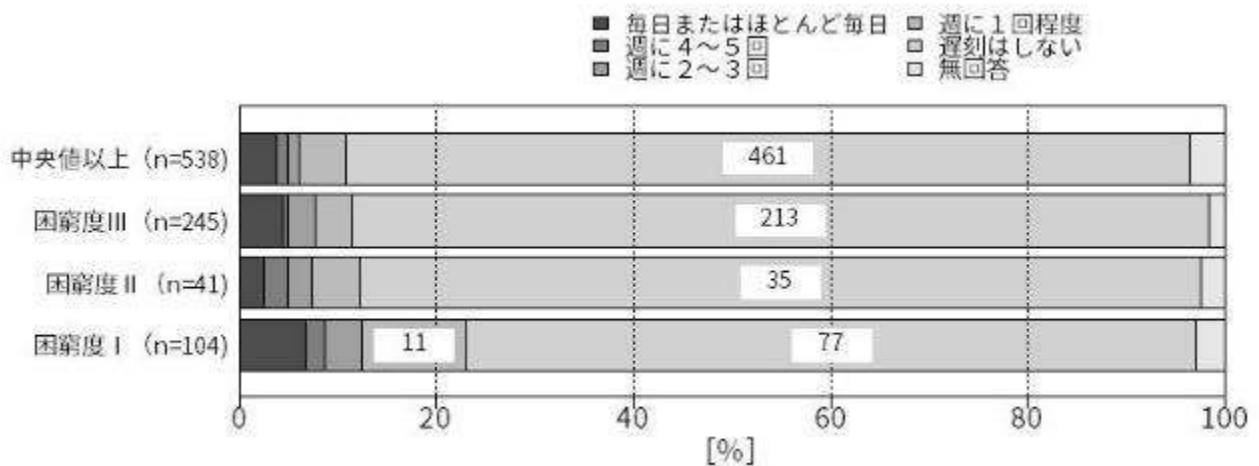
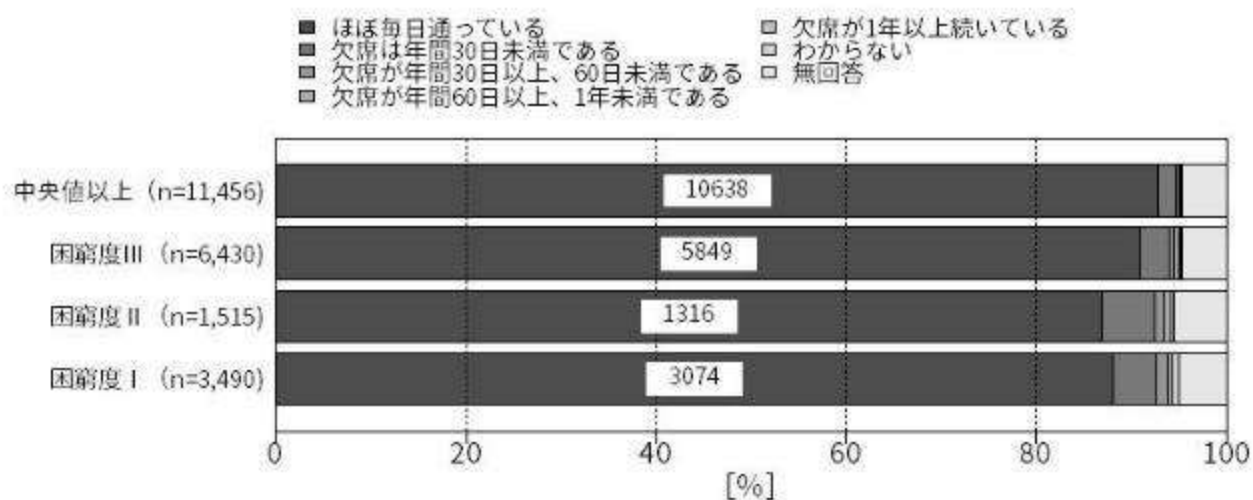


図 243. 困窮度別に見た、学校への遅刻

困窮度別に学校への遅刻を見ると、困窮度が高まるにつれ、週に1回以上遅刻をする子どもの割合が増える傾向にある。困窮度Ⅰ群では、週に1回以上遅刻をする割合は23.1%であった。

困窮度別に見た、子どもの通学状況（保護者票 問 21）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

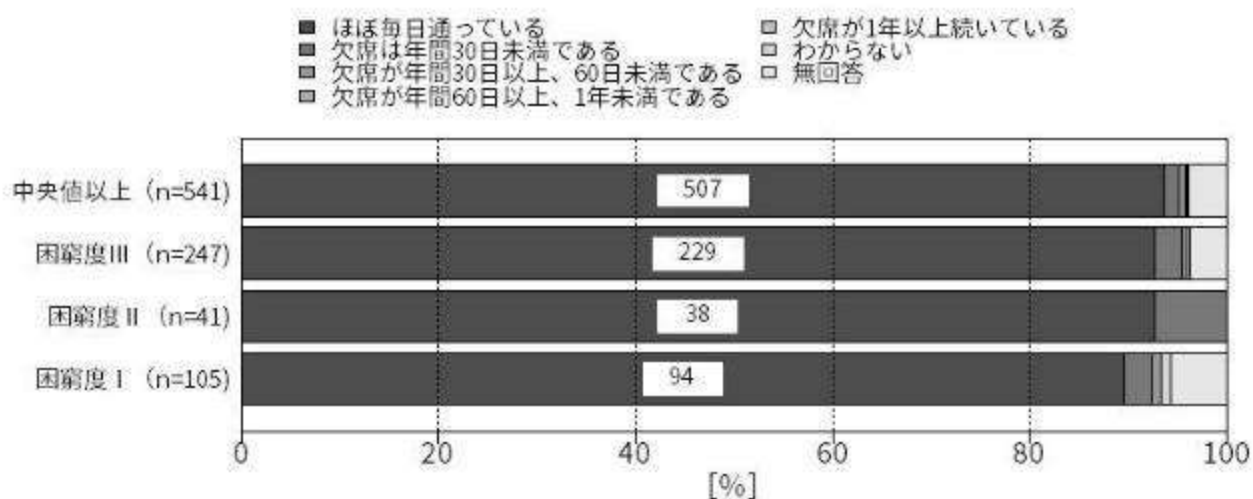


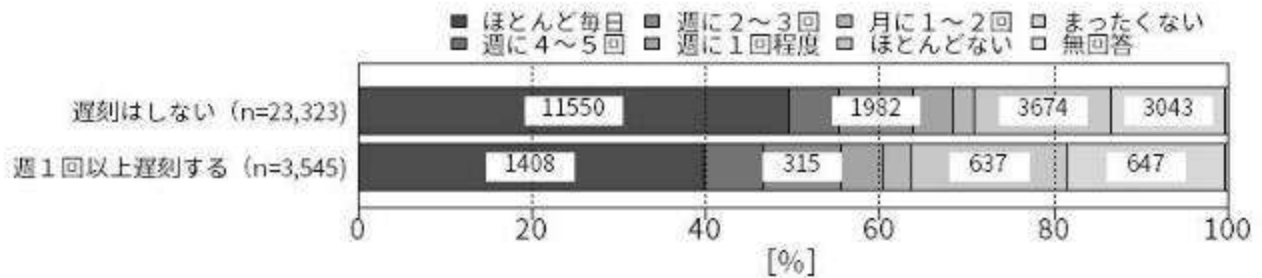
図 244. 困窮度別に見た、子どもの通学状況

困窮度別に子どもの通学状況を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群では、年間30日以上欠席している割合はそれぞれ、0.9%、1.0%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と朝食を食べるか) (子ども票 問9 × 子ども票 問10①)

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

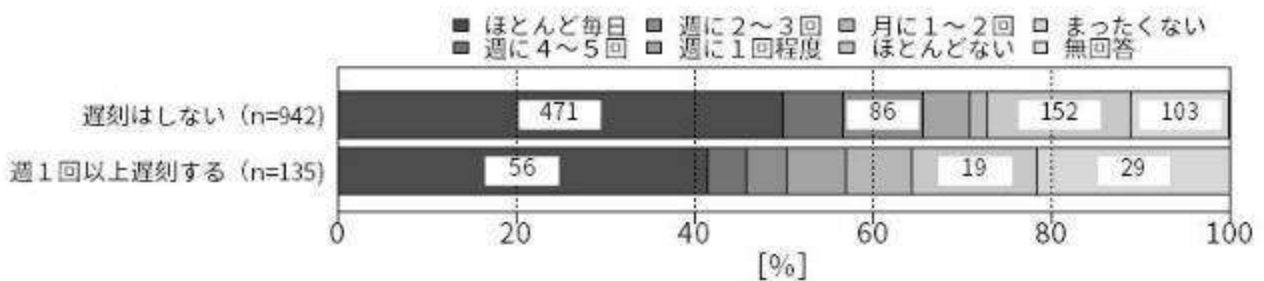


図 245. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と朝食を食べるか)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「ほとんど毎日」と回答した割合が41.5%であった。また、「ほとんどない」「まったくない」と回答した割合が高く、合計すると35.6%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と夕食を食べるか) (子ども票 問9 × 子ども票 問10②)

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

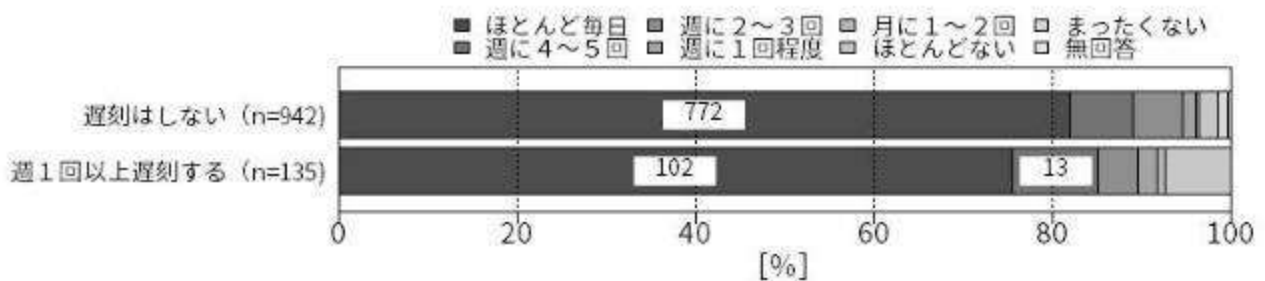


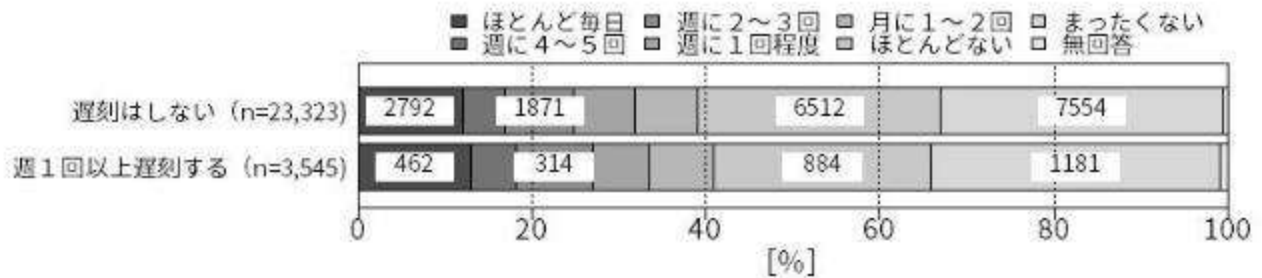
図 246. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と夕食を食べるか)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「ほとんど毎日」と回答した割合が75.6%であった。また、「ほとんどない」「まったくない」と回答した割合が高く、合計すると7.4%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人に宿題をみてもらうか) (子ども票 問9 × 子ども票 問10⑤)

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

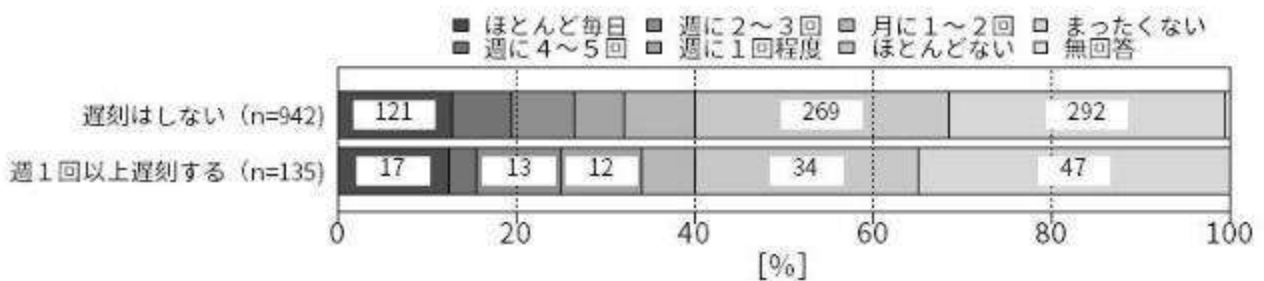


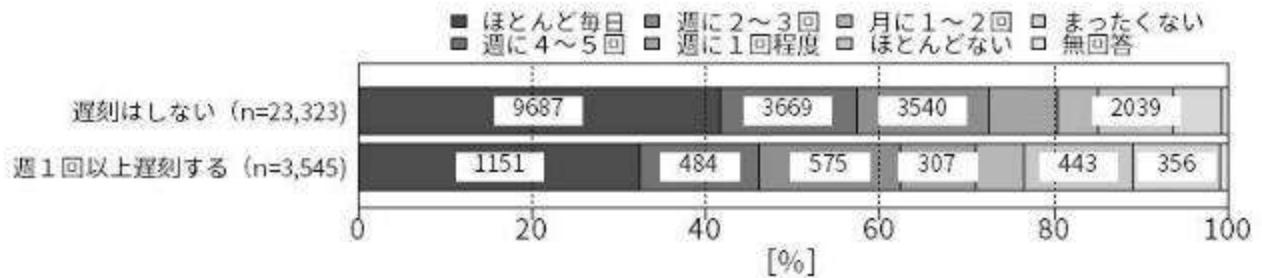
図 247. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人に宿題をみてもらうか)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり (おうちの大人に宿題をみてもらうか) を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「ほとんどない」「まったくない」と回答した割合は合計すると 60.0%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と学校の話をするか) (子ども票 問9 × 子ども票 問10⑥)

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

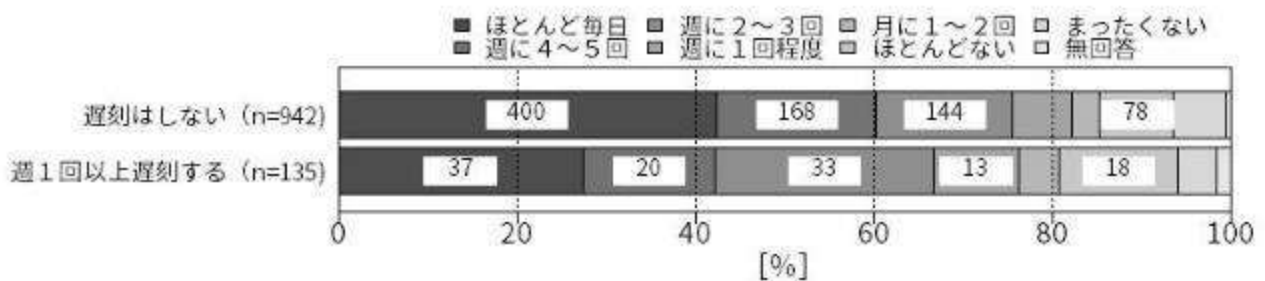


図 248. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と学校の話をするか)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「ほとんどない」「まったくない」と回答した割合は合計すると17.7%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか) (子ども票 問9 × 子ども票 問10⑦)

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

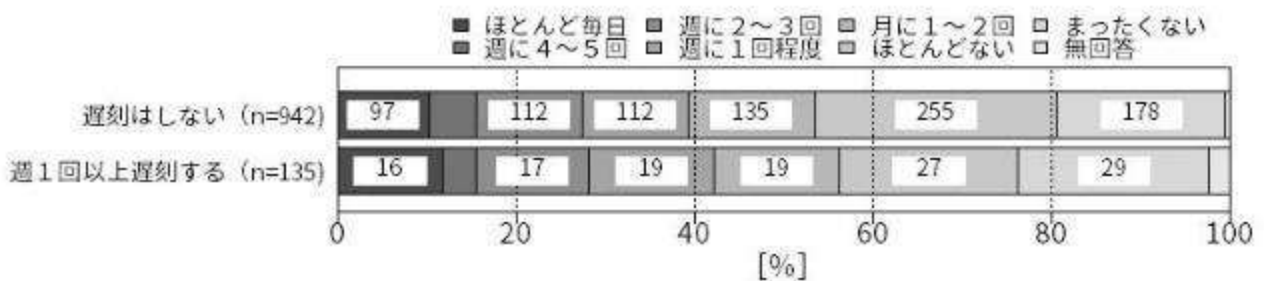


図 249. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「まったくない」と回答した割合が19.0%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と社会のできごとを話すか) (子ども票 問9 × 子ども票 問10⑧)

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

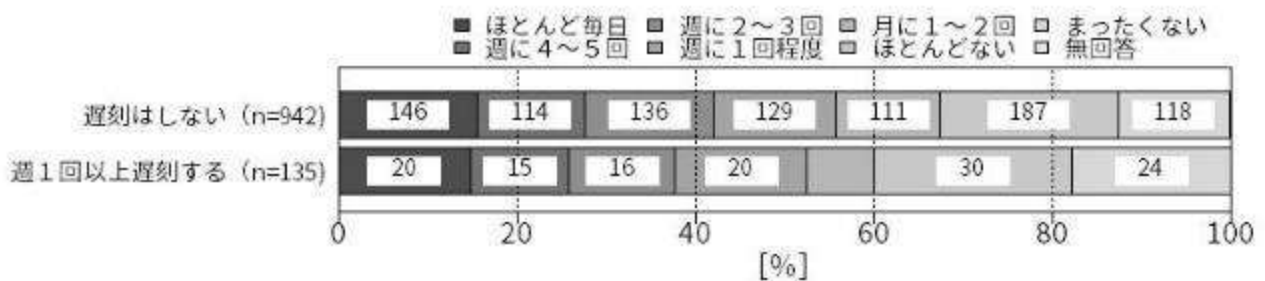


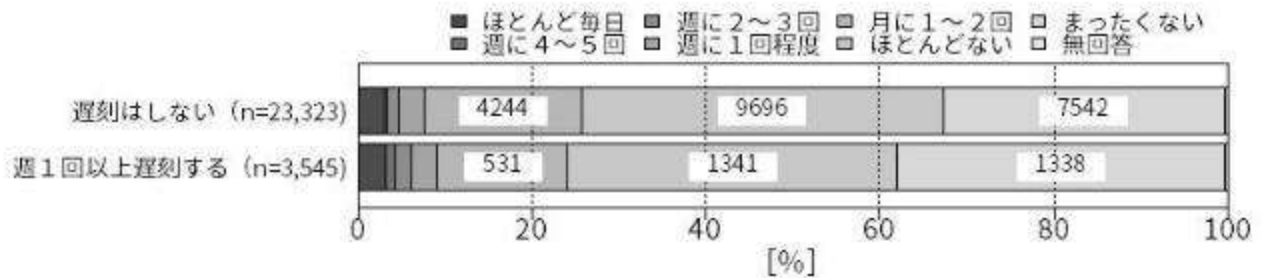
図 250. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と社会のできごとを話すか)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「まったくない」と回答した割合が17.8%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と文化活動をするか) (子ども票 問9 × 子ども票 問10⑨)

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

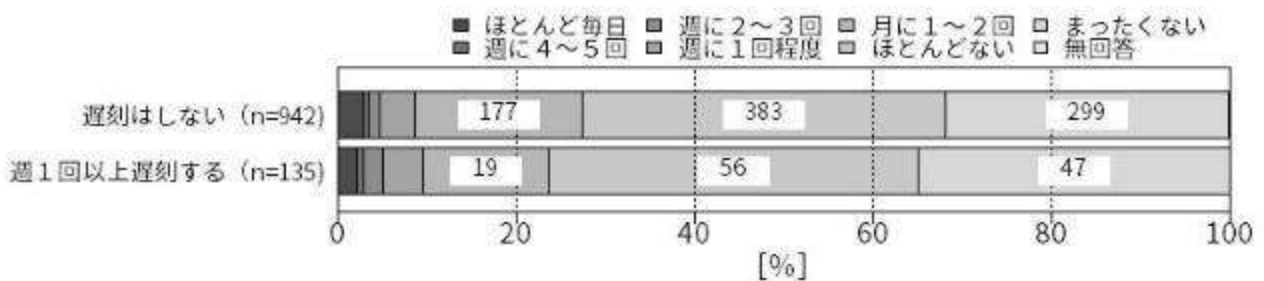


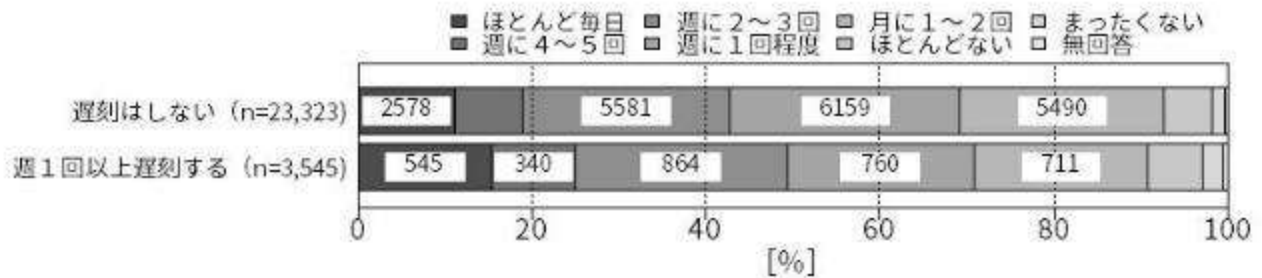
図 251. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と文化活動をするか)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「まったくない」と回答した割合が34.8%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と一緒に外出するか) (子ども票 問9 × 子ども票 問10⑩)

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

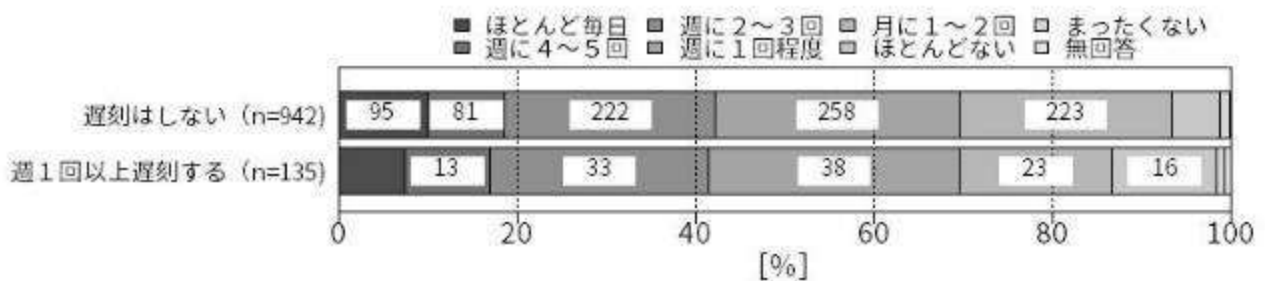
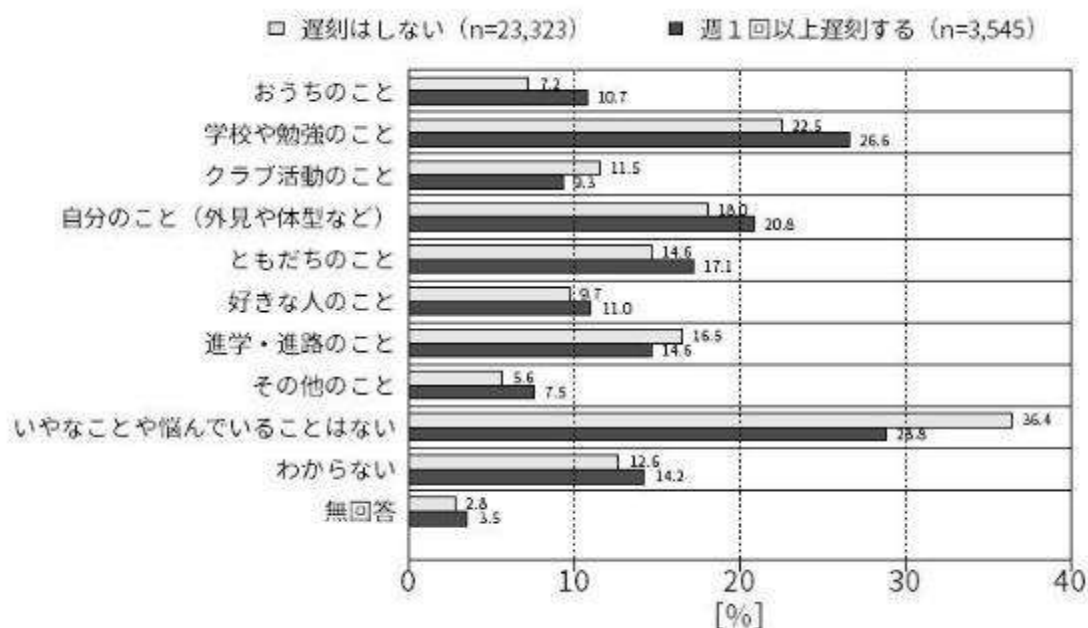


図 252. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と一緒に外出するか)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「ほとんど毎日」と回答した割合が7.4%であった。

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

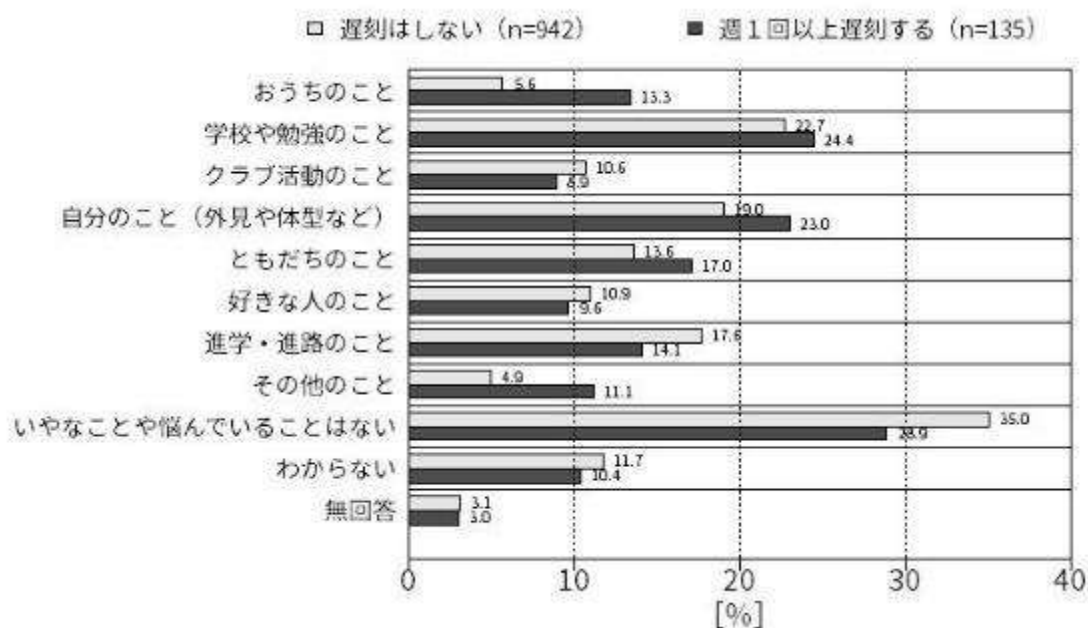
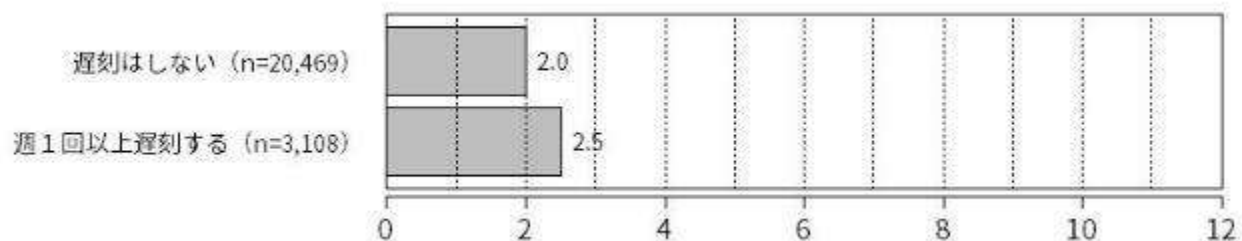


図 253. 学校への遅刻別に見た、悩んでいること

学校への遅刻別に子どもが悩んでいることを見ると、「週1回以上遅刻する」子どもの方が「遅刻はしない」子どもよりも、「自分のこと（外見や体型など）」では4ポイント、「おうちのこと」では7.7ポイント、「学校や勉強のこと」では1.7ポイント、回答した割合が高い。また、「遅刻はしない」子どもにおいては、「いやなことや悩んでいることはない」と回答した割合が35%である。

学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
 (子ども票 問 9 × 子ども票 問 24)

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

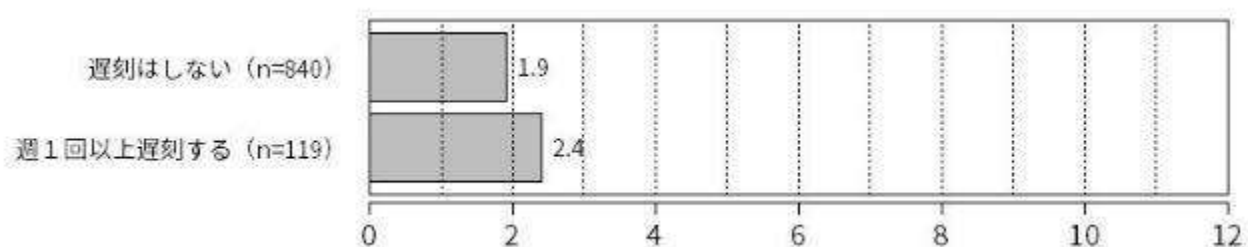


図 254. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

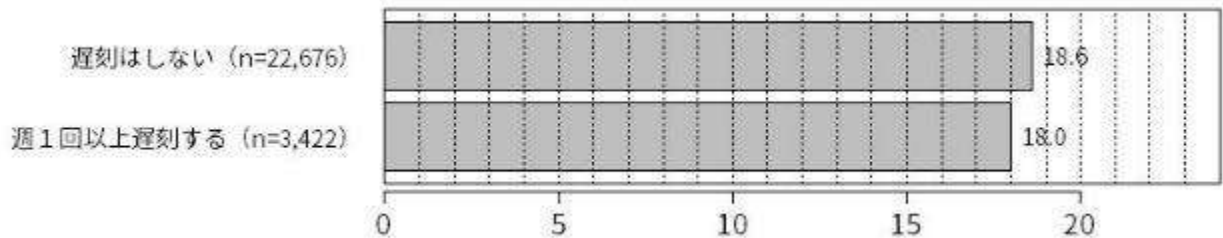
学校への遅刻別に子どもが自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、自分の体や気持ちで気になることが平均 2.4 個該当している。

学校への遅刻別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 9 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

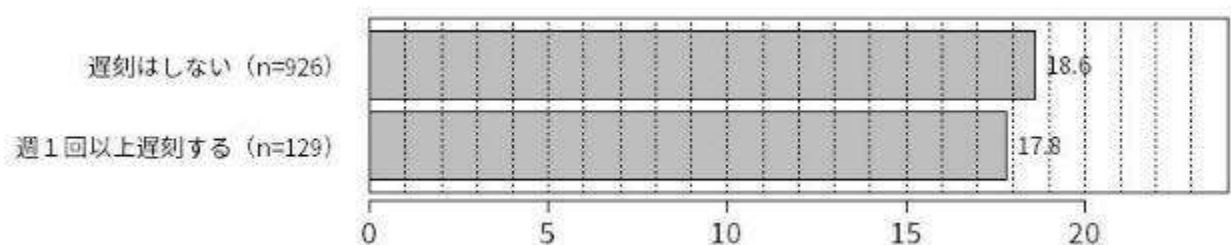
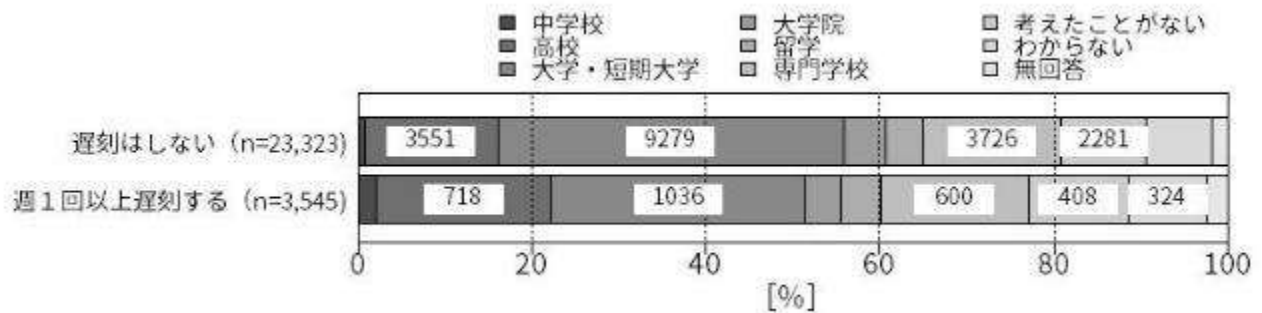


図 255. 学校への遅刻別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

学校への遅刻別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「週 1 回以上遅刻する」子どもは 17.8 点、「遅刻はしない」子どもは 18.6 点であった。

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

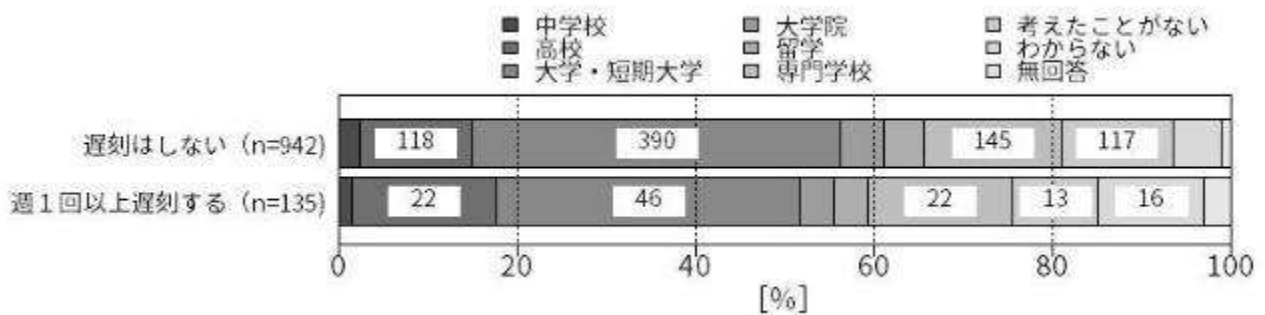


図 256. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先

学校への遅刻別に子どもの希望する進学先を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは「中学校」「高校」と回答した割合は合計すると17.8%であった。「遅刻はしない」子どもは、「大学・短期大学」と回答した割合が41.4%であった。

学校への遅刻別に見た、学習理解度（子ども票 問9 × 子ども票 問18）

※学習理解度について、「1. よくわかる」～「4. ほとんどわからない」まで4項目で評定させた。数値が低いほど、学習理解度が高いことを表す。

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

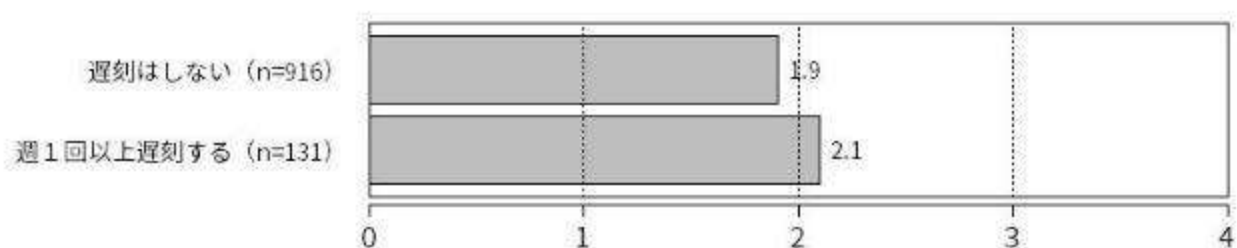
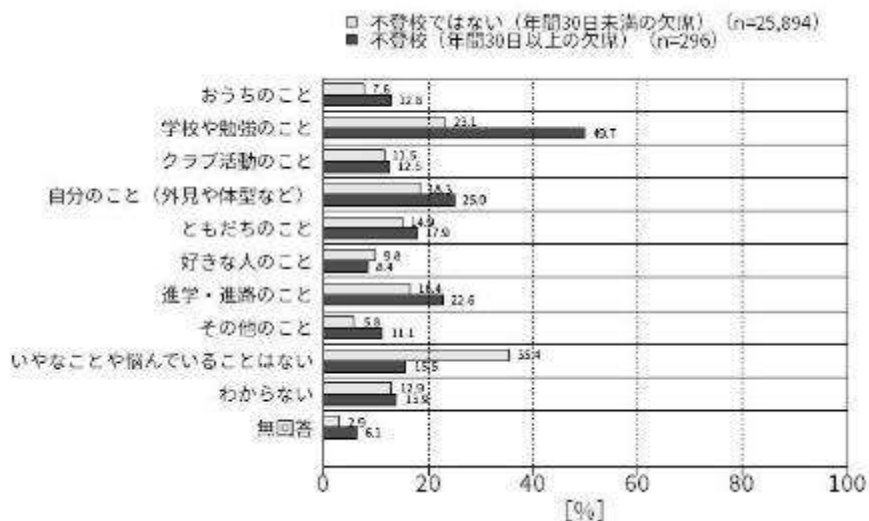


図 257. 学校への遅刻別に見た、学習理解度

学校への遅刻別に子どもの学習理解度を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは「遅刻はしない」子どもよりも学習理解度が低い。

登校状況別に見た、悩んでいること（保護者票 問 21 × 子ども票 問 21）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

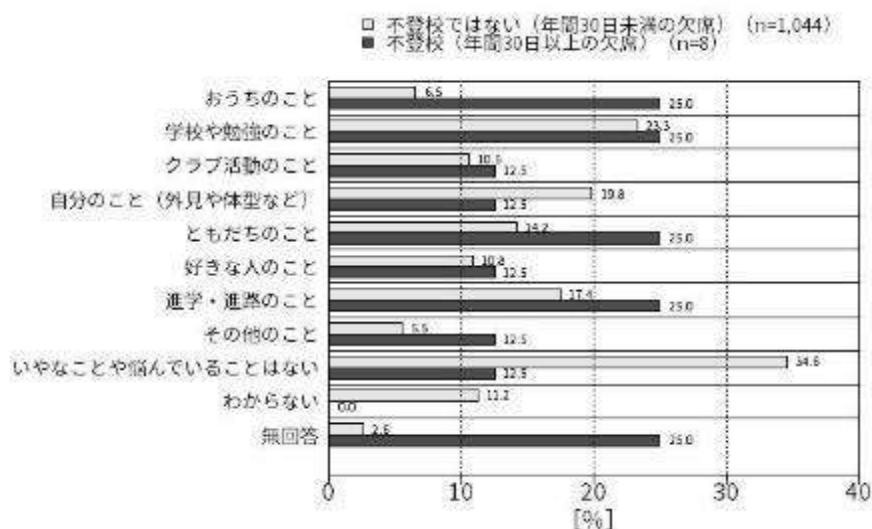


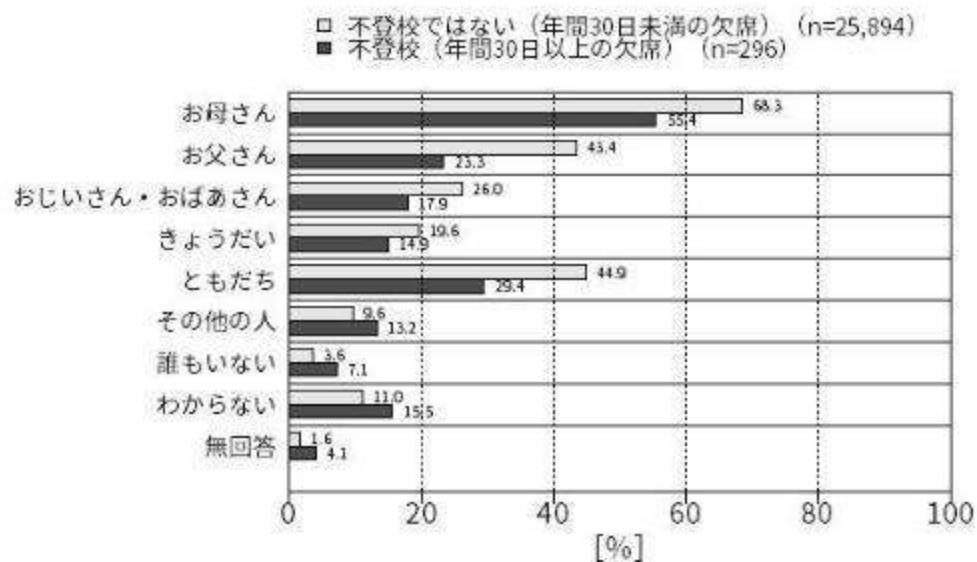
図 258. 登校状況別に見た、悩んでいること

ここでは、保護者票問 18 において「ほぼ毎日通っている」「欠席は年間 30 日未満である」を「不登校ではない」、「欠席が年間 30 日以上、60 日未満である」「欠席が年間 60 日以上、1 年未満である」「欠席が 1 年以上続いている」を「不登校」としている。

登校状況別に子どもの悩んでいることを見ると、「おうちのこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 3.8 倍、「その他のこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 2.3 倍、「ともだちのこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 1.8 倍となっている。また、「不登校でない」子どもでは、「いやなことや悩んでいることはない」に該当するのは 34.6%であった。

登校状況別に見た、「悩んだときの対処をしてくれる人」がいない割合
(保護者票 問 21 × 子ども票 問 23⑥)

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

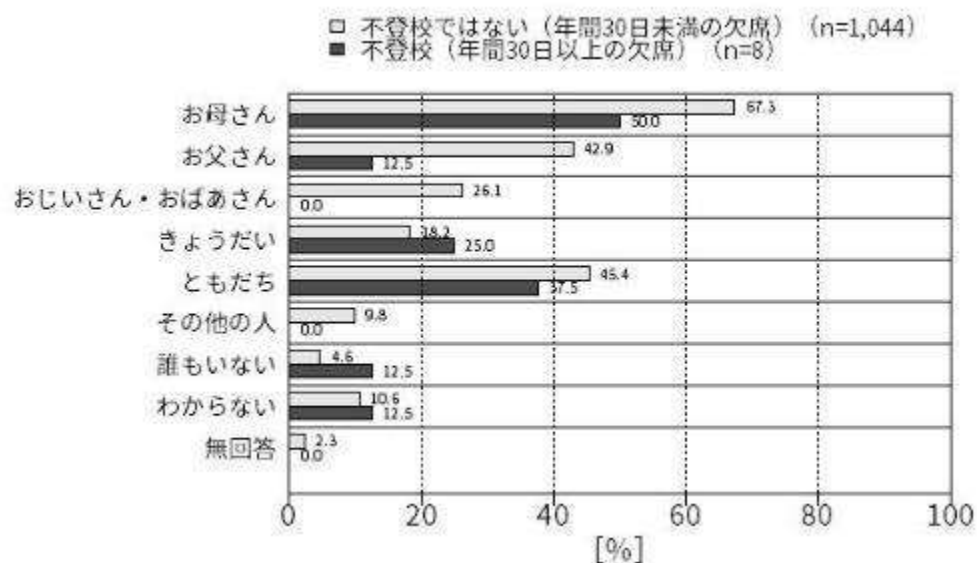
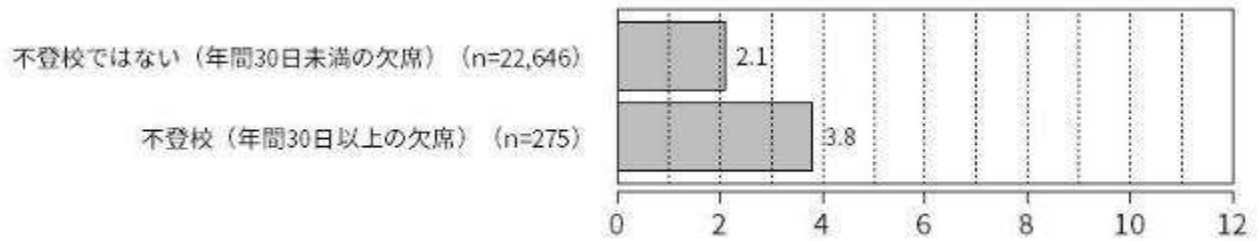


図 259. 登校状況別に見た、「悩んだときの対処をしてくれる人」がいない割合

登校状況別に子どもの「悩んだときの対処をしてくれる人」がいない割合に着目すると、「不登校」では 12.5%であり、「不登校ではない」子どもの 2.7 倍である。

登校状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
 (保護者票 問 21 × 子ども票 問 24)

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

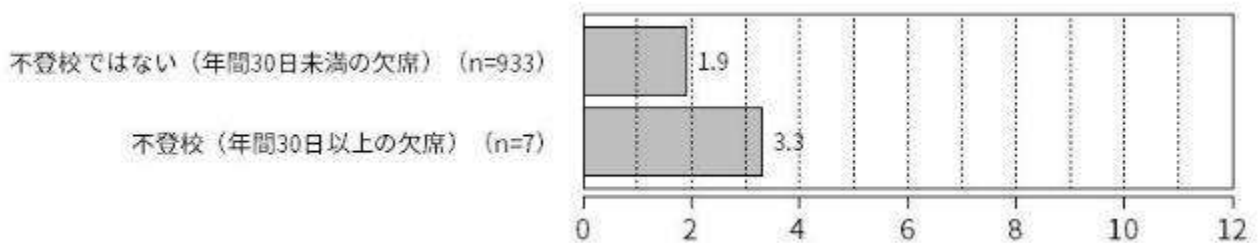


図 260. 登校状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

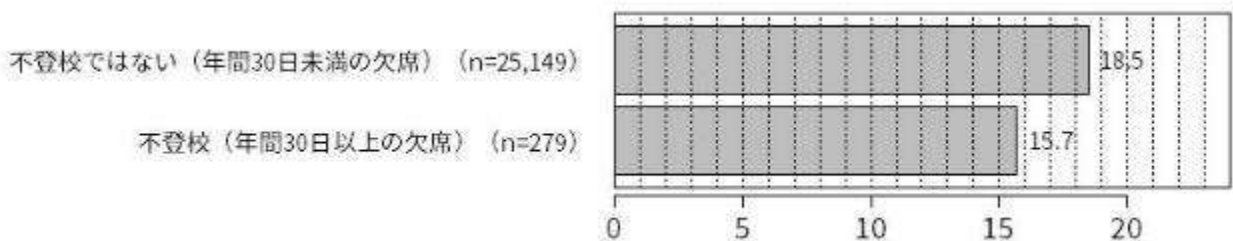
登校状況別に子どもの自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「不登校」では平均 3.3 個であり、「不登校ではない」子どもの約 1.7 倍である。

登校状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

（保護者票 問 21 × 子ども票 問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

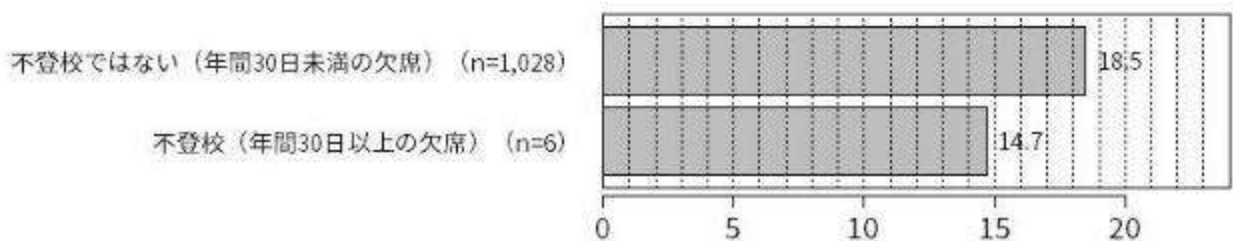
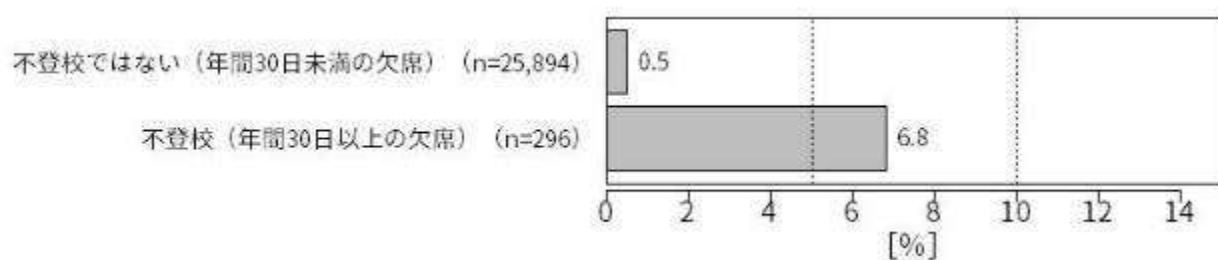


図 261. 登校状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

登校状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「不登校」では平均 14.7 点であり、「不登校ではない」子どもよりも約 4 点低い。

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

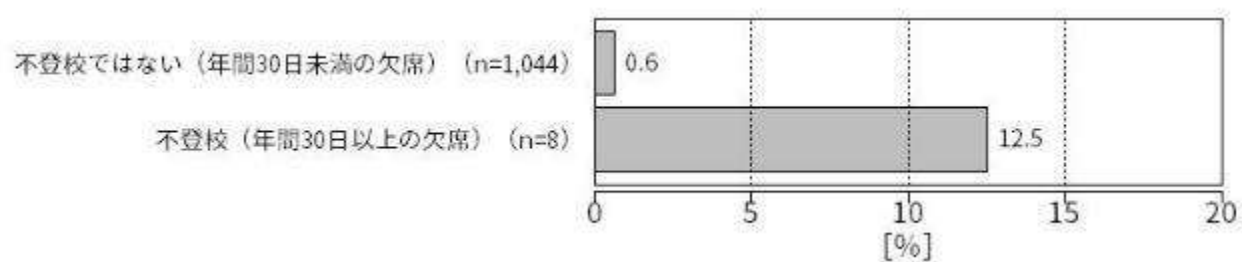
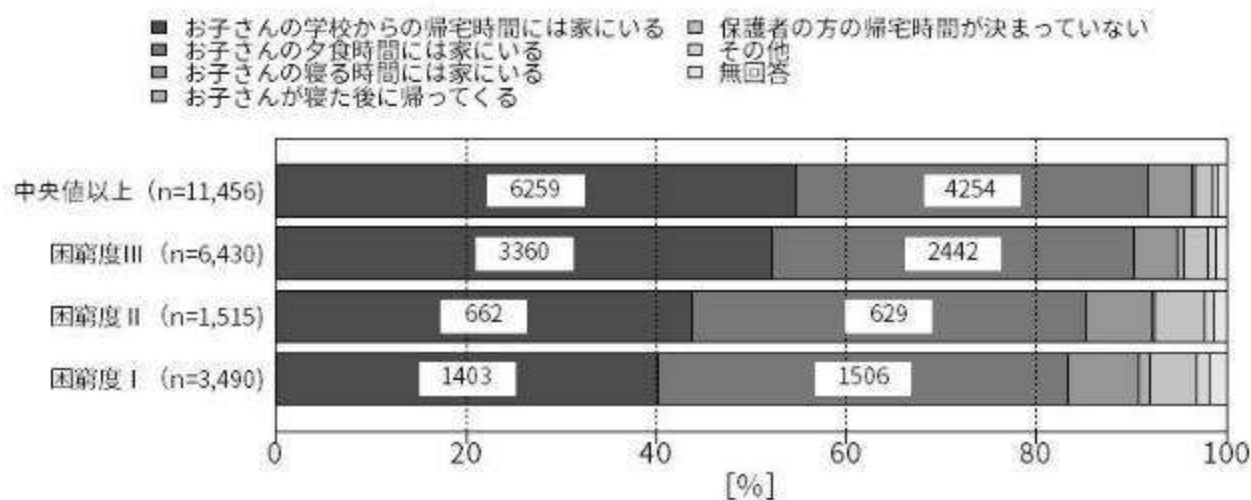


図 262. 登校状況別に見た、スクールカウンセラーに相談する割合

登校状況別に子どもの嫌なことや悩んでいるときにスクールカウンセラーに相談する割合を見ると、12.5%（中央値以上群に対して、20.8 倍）となっている。

困窮度別に見た、保護者の在宅時間（保護者票 問 10）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

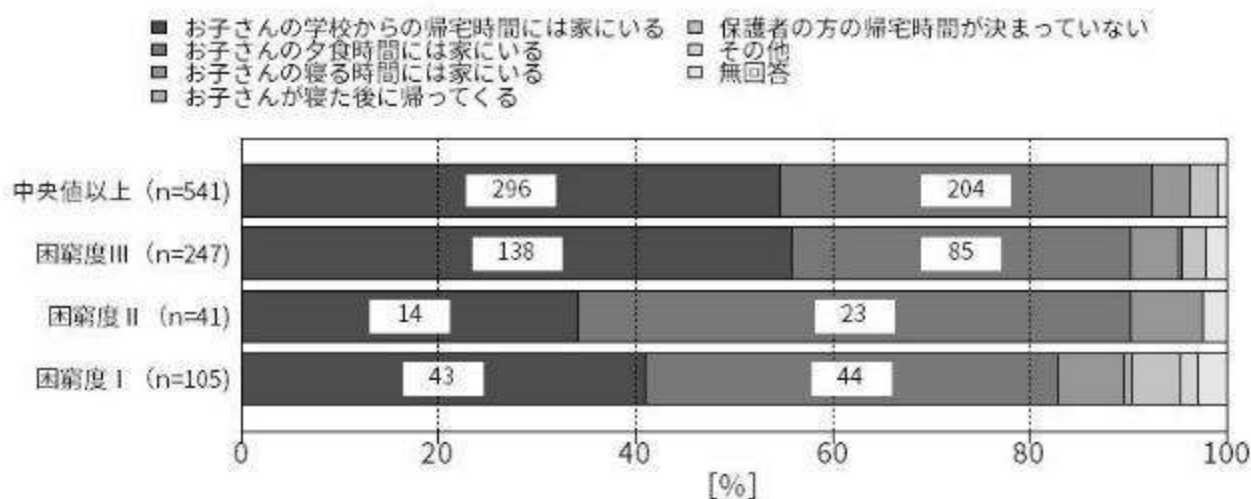
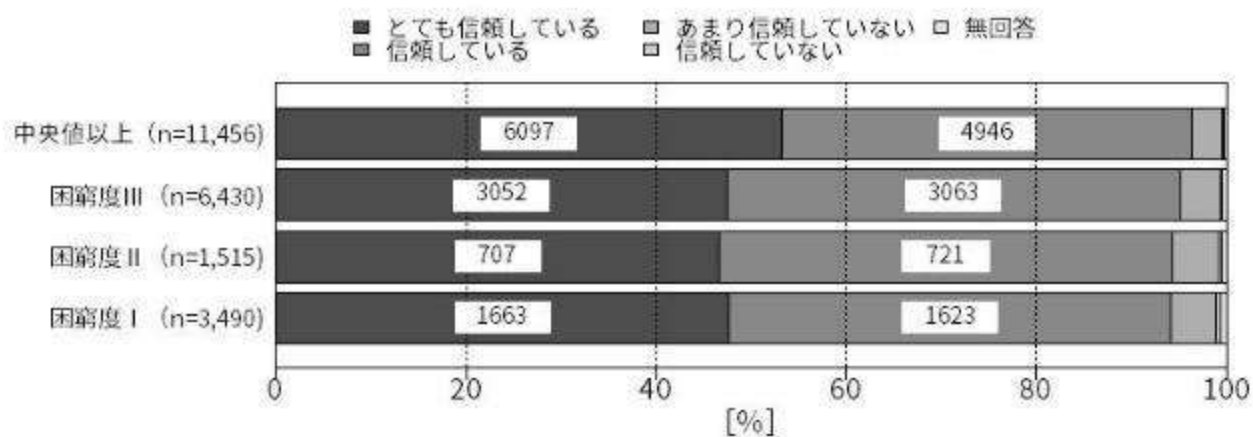


図 263. 困窮度別に見た、保護者の在宅時間

困窮度別に保護者の在宅時間を見ると、中央値以上群の方が困窮度Ⅰ群よりも、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」と回答した割合が高い傾向にあった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）（保護者票 問 14(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

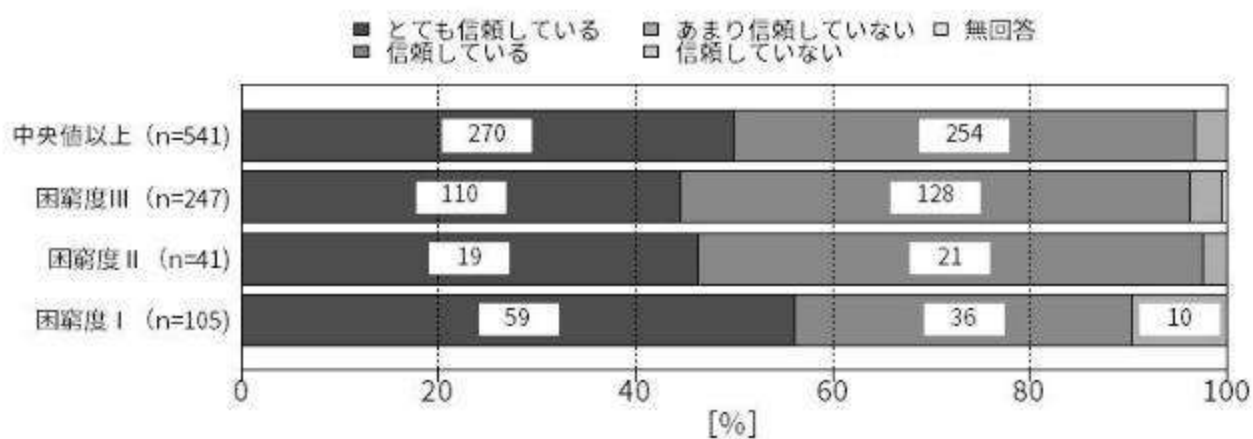
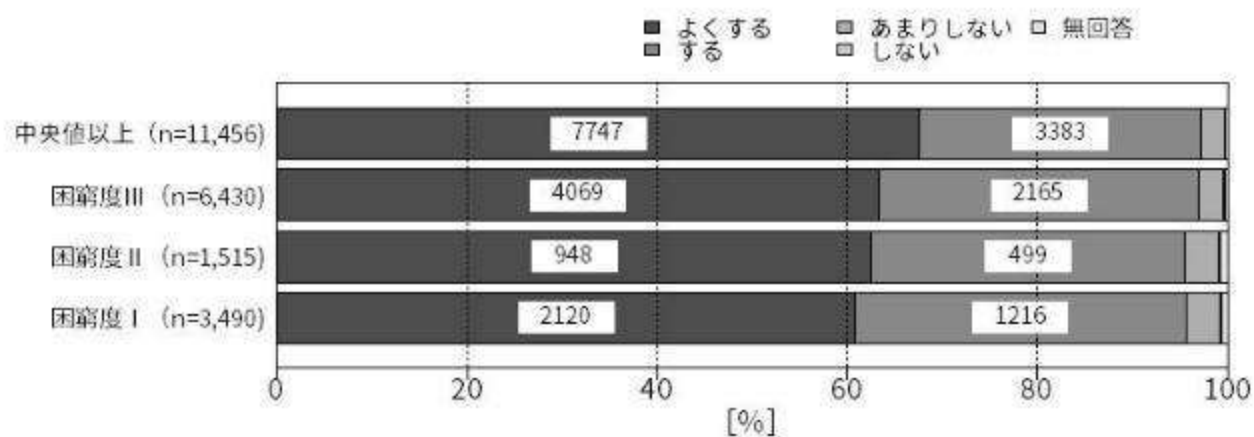


図 264. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「とても信頼している」と回答した割合は、中央値以上群では 49.9%、困窮度Ⅰ群では 56.2%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）（保護者票 問 14(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

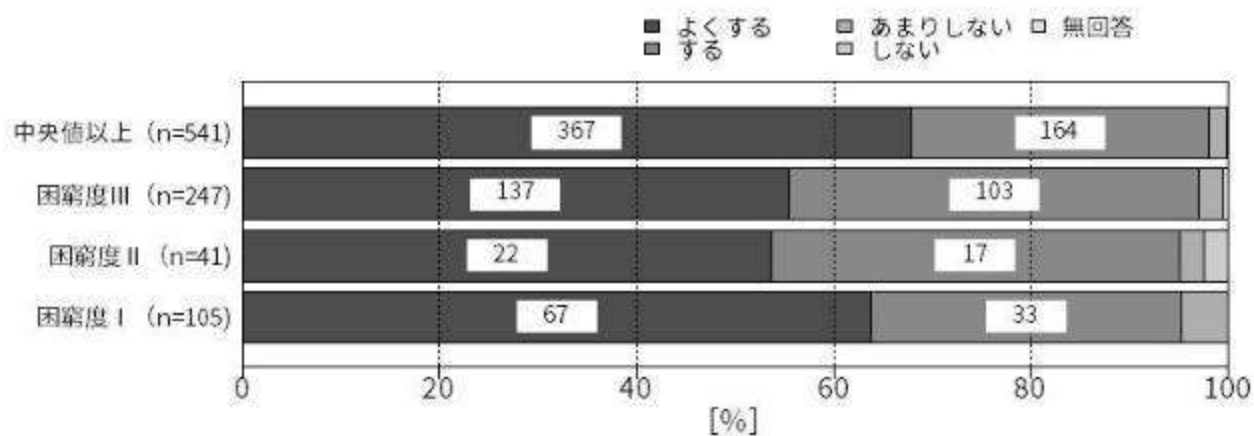
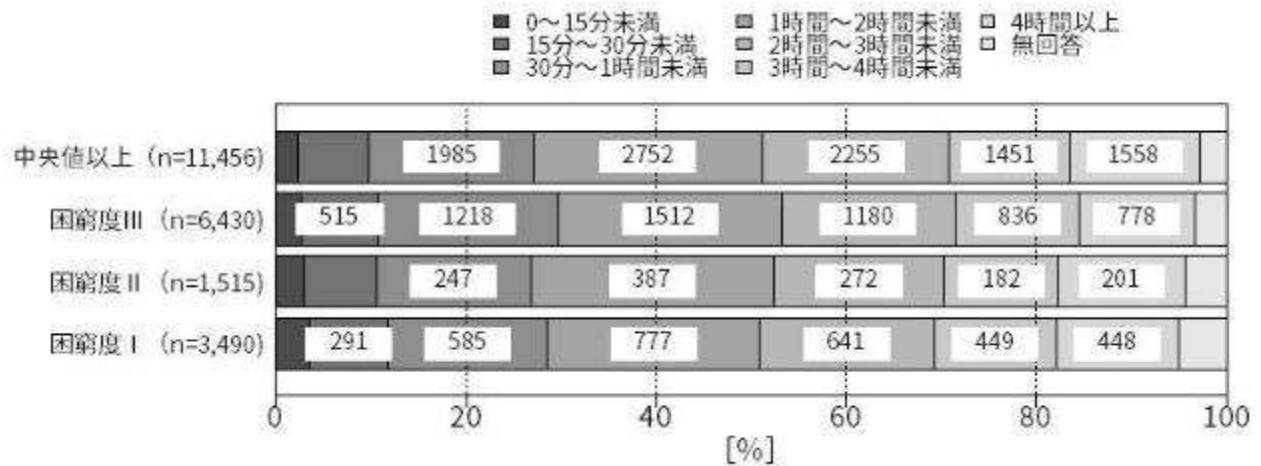


図 265. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「よくする」と回答した割合は、中央値以上群では 67.8%、困窮度Ⅰ群では 63.8%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））
（保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

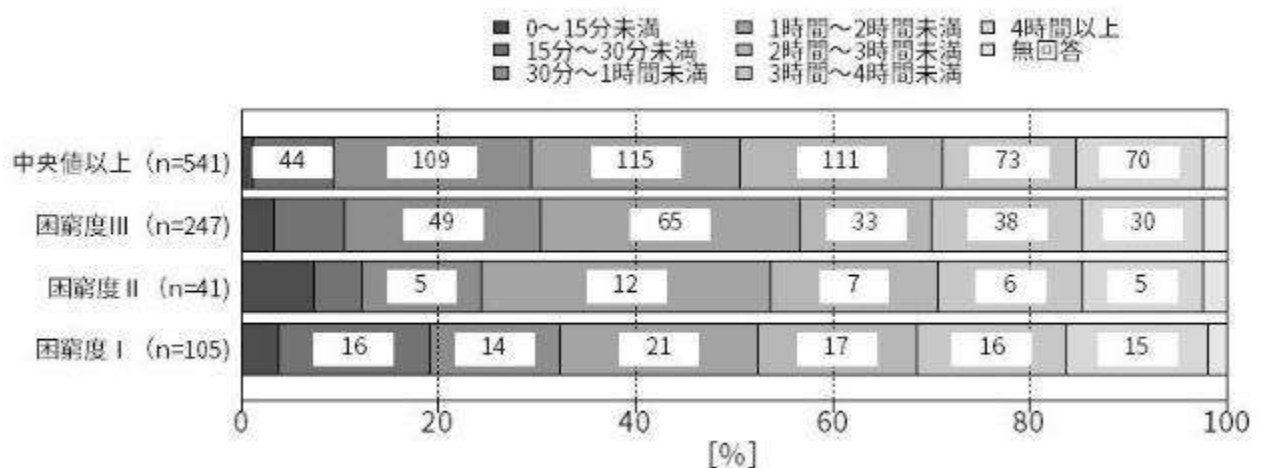
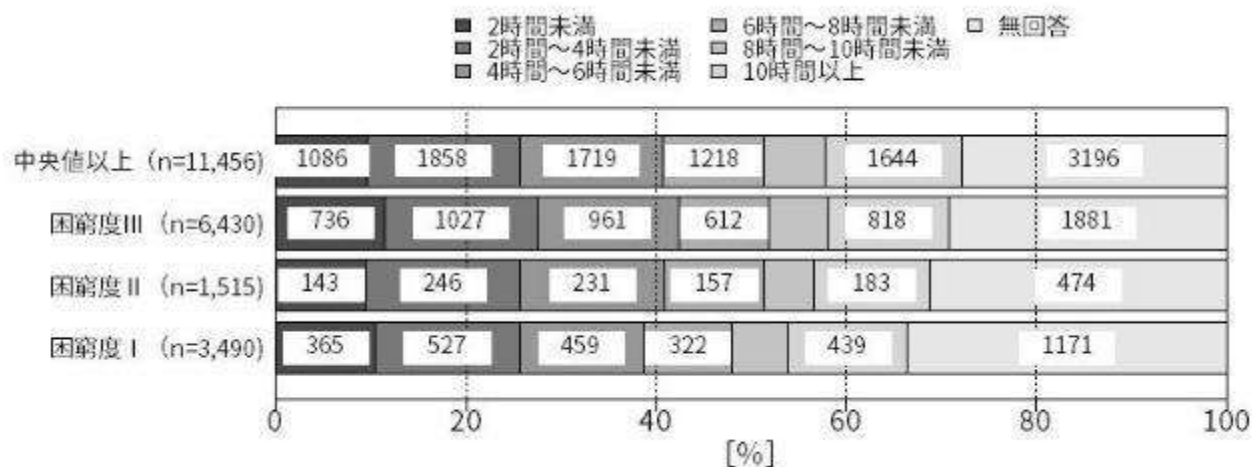


図 266. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（平日））を見ると、困窮度による大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））
（保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

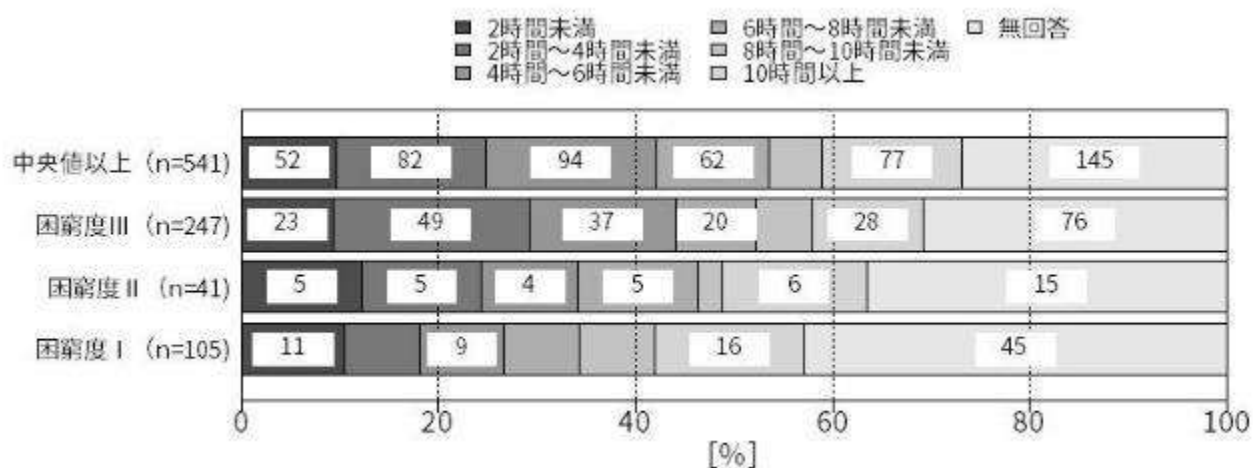
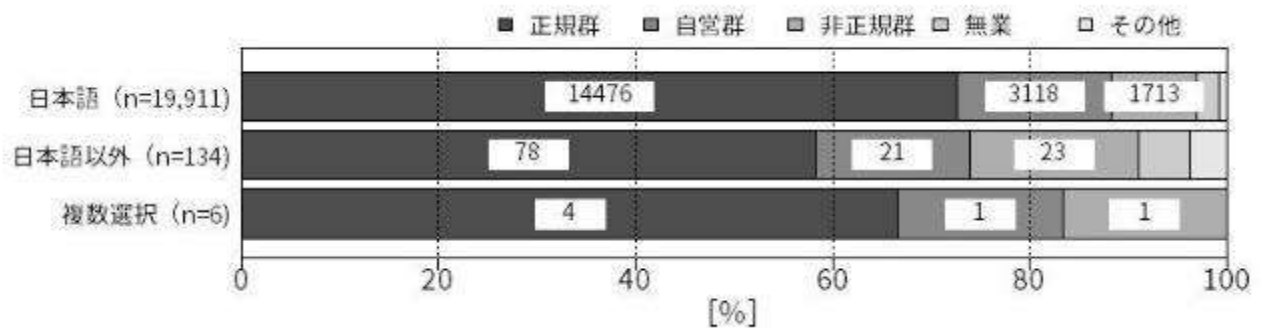


図 267. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））を見ると、困窮度が高まるにつれて、「2時間未満」「2時間～4時間未満」をあわせた割合が低くなっている。

日常生活でよく使う言葉別に見た、就労状況
(保護者票 問2 × 保護者票 就労状況)

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

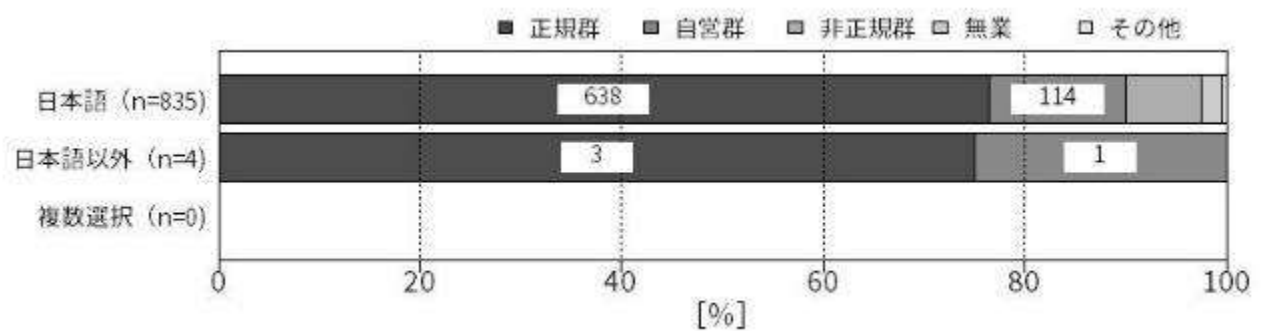
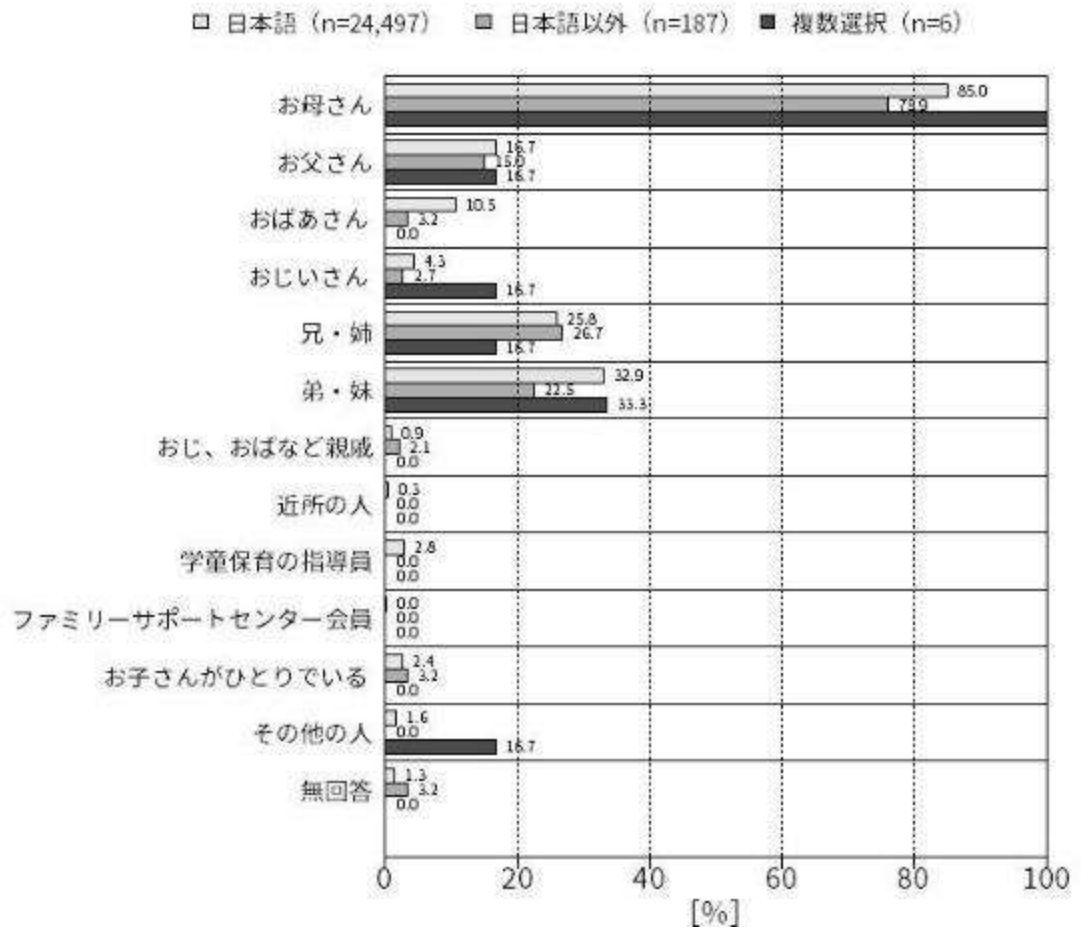


図 268. 日常生活でよく使う言葉別に見た、就労状況

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもと過ごす時間が長い人
 (保護者票 問2 × 保護者票 問11)

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

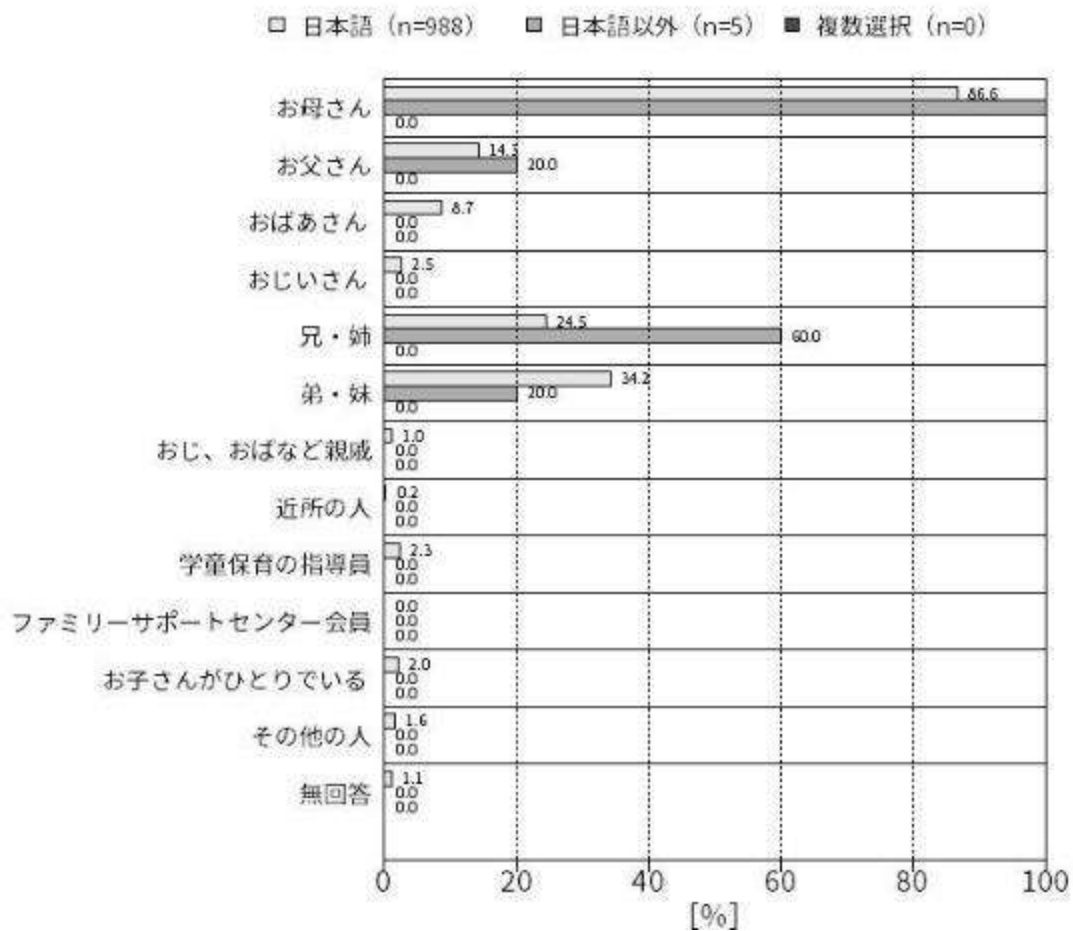
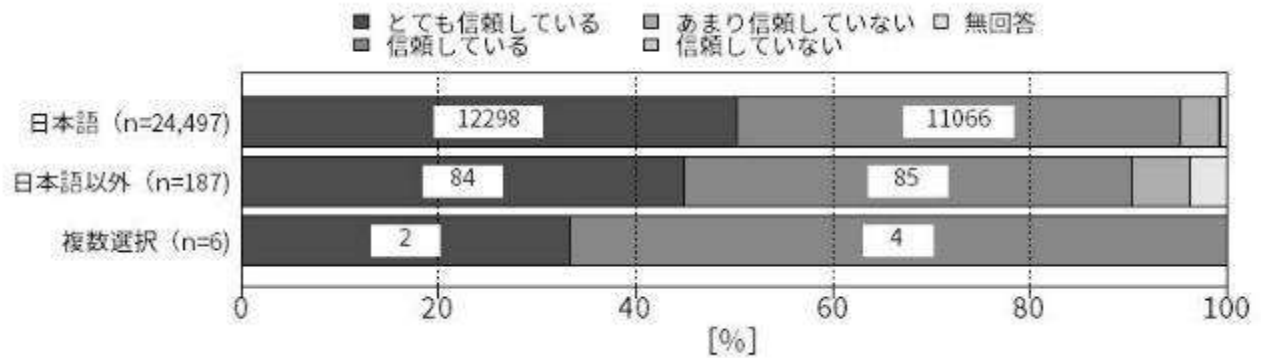


図 269. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
 (子どもへの信頼度) (保護者票 問2 × 保護者票 問14(1))

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

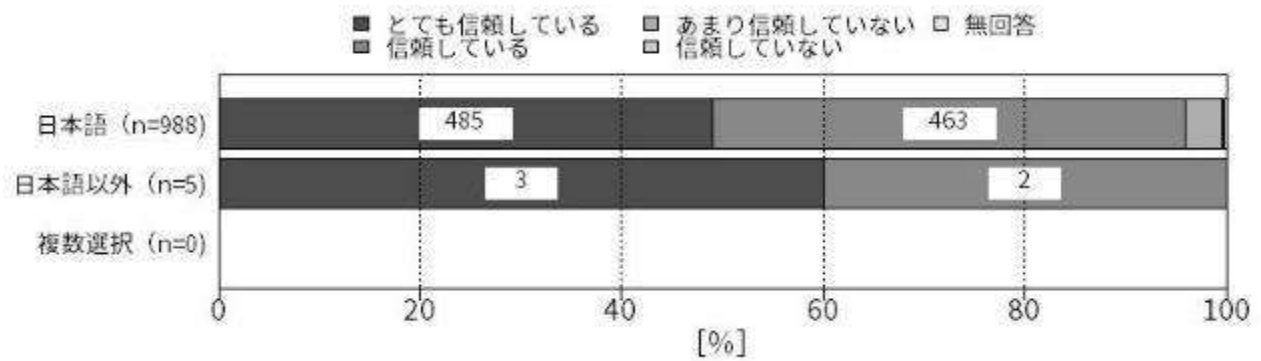
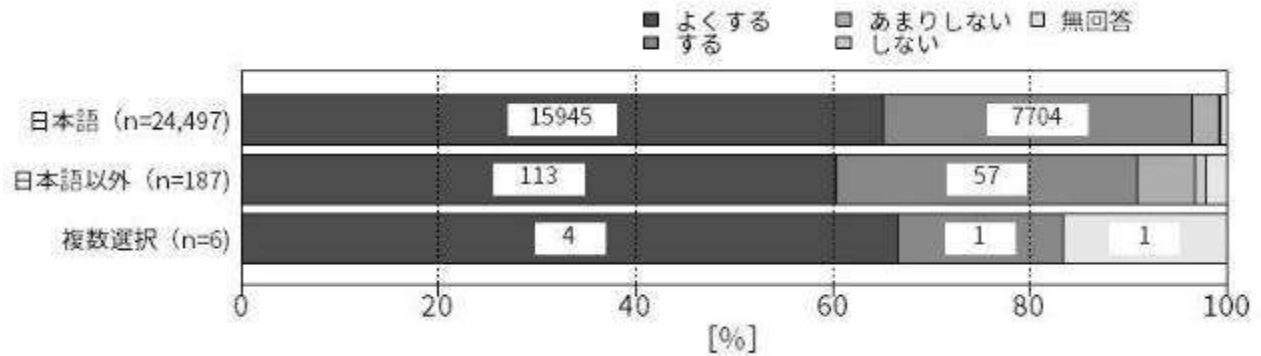


図 270. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもへの信頼度)

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
 (子どもと会話) (保護者票 問2 × 保護者票 問14(2))

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

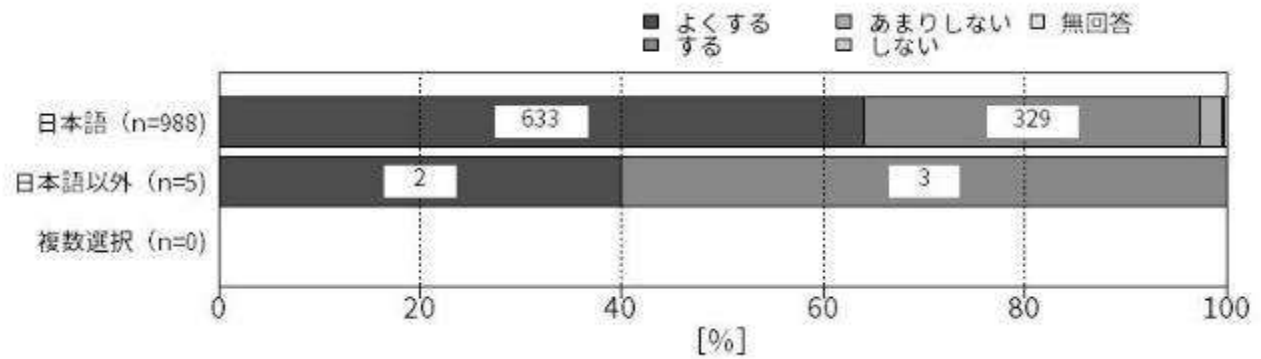


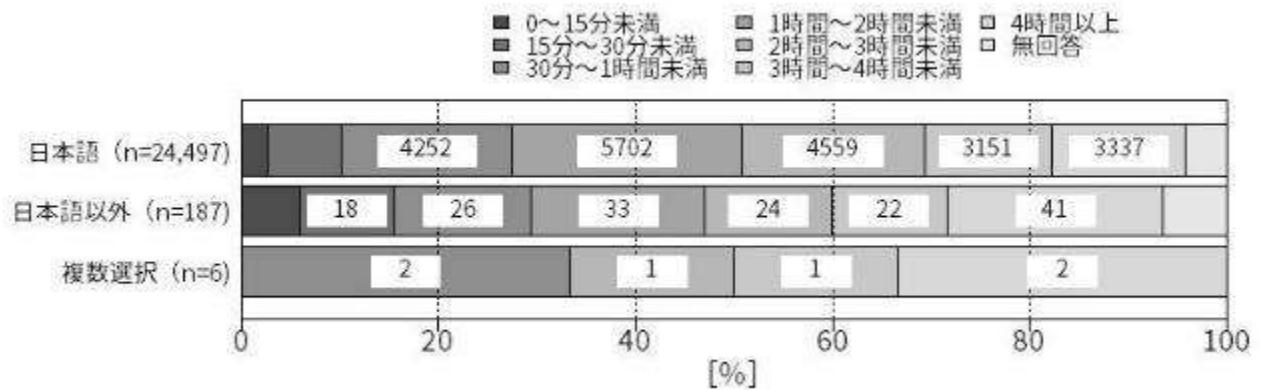
図 271. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもと会話)

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり

(子どもと一緒にいる時間(平日))(保護者票 問2 × 保護者票 問14(3))

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

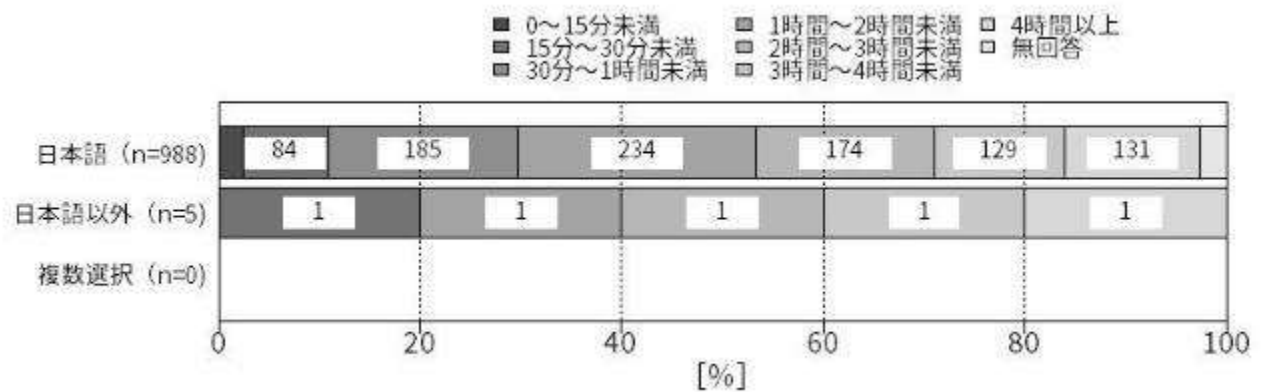


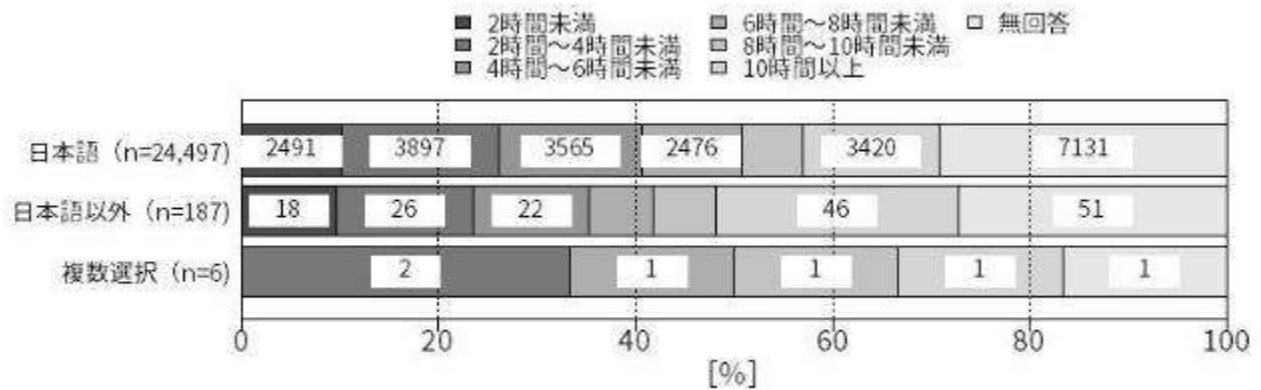
図 272. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
(子どもと一緒にいる時間(平日))

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり

(子どもと一緒にいる時間(休日))(保護者票 問2 × 保護者票 問14(3))

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

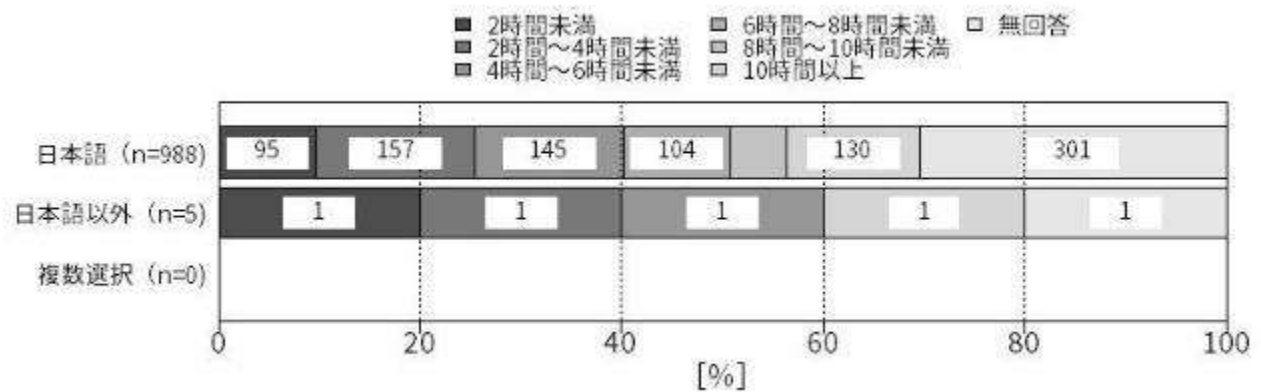


図 273. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
(子どもと一緒にいる時間(休日))

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。